

右ハ拙者借用仕候御貸金納高之儀知行所村  
方差向右物成ヲ以テ相納候積リ證文書替相  
濟去々辰年ハ證文書替以前右物成拙者方へ  
先納致候間同年分拙者ヨリ相納去巳年分村  
方ヨリ皆上納可仕候處辰年分納方差支去巳  
年之儀損毛ニ付格別之譯ヲ以延納之儀願之  
通御聞濟相成候ニ付當午年ヨリ御貸附納方  
ニ差向ケ候村方并扣村物成之内ニテハ其年  
分皆上納仕右物成殘金ヲ以書面未納之分相  
納可申旨得其意則右未納之分皆上納不相濟

内ハ引受村並扣村物成拙者方へハ不相納村  
方之者ヨリ直ニ當御役所へ納可申旨村方之  
者へ申渡置仍如件

文政五年 年月

御役名  
何之誰印

御貸附方  
御役所

村方ノ請證文接

差上申御受證文之事

去々辰年納高  
金何程之内何程同年同月地頭所ヨリ上納  
殘テ  
一金何程 未納

是ハ地頭拜借之御貸附金納方私共村方引受證文差上不

申以前辰年分物成地頭所へ相納候處地頭所ニ未納之分  
去巳年納高  
金何程之内去巳何月上納仕

殘テ  
一金何程 未納

是ハ去巳年分地頭所ヨリ損毛引方用捨被申付候ニ付  
當御役所ニ差上置候證文面ノ趣ヲ以扣村物成差足候  
得共納金高不足ニ付右不足之分延納之儀奉願候處損  
毛歩合等御糺之上願之通御聞濟被成下未納之分

合金何程 總未納高

右者地頭何之誰拜備仕候御貸附金納方之儀  
私共村方引請ニ罷成扣村一同證文差上置候

ニ付右證文面ノ趣ヲ以前書之分皆上納可仕  
候處去巳年損毛ニ付格別之譯ヲ以延納之儀  
願之通御聞濟被成下候ニ付當午年ヨリ私共  
村方物成之内ニテ其年分皆上納仕右物成殘  
金ヲ以書面未納ノ分上納可仕尤未納分皆上  
納不相濟内ハ引請村並ニ扣村物成地頭所へ  
ハ不相納直ニ當御役所へ上納可仕旨地頭所  
ヨリモ申渡有之猶又當御役所ニテモ被仰渡  
承知奉畏候然ル上ハ十二月幾日限リ其年分  
並前書未納之分共一同無遲滯急度上納可仕

候萬一納方差滯等之儀モ御座候ハ、何様被  
仰付候共一言之儀申上間敷候爲後日御講證  
文差上申處仍テ如件

文政五年年月

各前

御貸附方  
御役所

以上  
牧民  
金鑑

謹按前文ハ證書案ニシテ他ノ紀事文ト  
異ナレハ考古ノ如ク原文ヲ存ス讀ムモ  
ノ諒セヨ

七年馬喰町官邸金ヲ始メ官貸ニナリタル分返

申甲

納ヲ免スルニヨリ其餘ノ分ハ遲滯ナク返納ス  
ヘキコトヲ令ス

是歲十月二十七日令シテ曰ク馬喰町官邸ノ  
貸附金ヲ借用スル者返納方等ハ掛リ勘定奉  
行ヨリ申達シタル趣モ之アレトモ納方等閑  
ノモノモアリト聞ク以テ外ノ事ナレトモ  
頻年米穀下直ニテ止ムコトヲ得ス納方滯ル  
ノ分モ不少ニヨリ別段ノ譯ヲ以テ拾萬石以  
下ノ者ニテ借受方多キ分ハ本年ヨリ納方ヲ  
免スルニヨリ其餘ノ分總テ不納之アル者ハ

西乙

以來遲滯ナク返納スヘシ遠國代官預所貸附  
金モ亦同様タルヘシ牧民金鑑

八年官貯ノ麥拂代貸附ヲ始メ諸貸附金ノ元利  
取調ヘ毎歲差出スヘキ旨ヲ令ス○官貸金納方  
主法替ニ付其方法ヲ令ス○各村官貸金ヲ止ム  
ル旨去年達セシ後特別ヲ以テ貸渡ノ分アラハ  
申出ツヘキ旨ヲ令ス

是歲八月令シテ曰ク官貯ノ麥拂代貸附曰ク  
取集メノ穀拂代貸附曰ク元清水家領知中下  
ケ金貸附曰ク圍糶欠減償方手當貸附曰ク繩

延拂代貸附曰ク上總國村々差出金貸附曰ク  
飛驒國村々同斷貸附曰ク甲斐國廻米陸附助  
成貸附曰ク遠江國中泉村寄特金貸附曰ク遠  
三州不熟米石代仕理貸附曰ク三河國水難潰  
百姓助合金貸附曰ク河内國貯夫食稼増貸附  
曰ク武藏國村々社倉金貸附曰ク甲斐國勵錢  
貸附曰ク越後國水原村外一個村差出金貸附  
曰ク武藏國皿沼村寄特物差出金貸附曰ク備  
中國龍納鐵代貸附曰ク關東筋村積金貸附曰  
ク石見國凶年手當銀貸附曰ク同國急難夫食

手當貸附

右貸附金銀貸渡方其他取計方ノ事ニ付キ毎  
 歳仕譯書ヲ差出サ、ル分モ之レアルニヨリ本  
 年ヨリ毎歳元利有高及ヒ遣拂其他トモ巨細  
 ニ記載シ差出スヘシ牧民鑑○同月達ニ日ク萬  
 石以上拾萬石以下ノ者借受クル所ノ官貸金  
 納方主法替ニ付キ利金減ノ分補方ハ萬石以  
 下納方主法替ニ付キ不足利金ノ補方ニナル  
 ヘキ分打込ミ仕拂ヒ全ク不足ノ分決算ノ上  
 馬喰町貸附役所ヨリ渡スヘシ且右補金仕拂

卯辛

有餘ノ分ハ同所へ引渡スヘキニヨリ取調ベ  
 右役所へ申出ツヘシ牧民鑑○十二月十五日令  
 シテ日ク總テ公領内村々へ貸附金貸渡ヲ止  
 ムルヤウ去<sub>レ</sub>成年布達アレトモ其後特別ノ譯  
 ヲ以テ稟議ノ上猶又貸渡シタル分モ之レアレ  
 ハ其旨ヲ巨細ニ記載シ有無トモ馬喰町貸附  
 役所へ申出ツヘシ牧民鑑  
 天保二年官貸金増加セシニヨリ新ニ貸附セサ  
 ルヘキ旨ヲ令ス  
 是歳八月二十五日令シテ日ク官貸金追々増

加シ借方不納多ク諸般ノ渡方ニ差支フルニ  
 ヨリ屢々布達モアレトモ速ニ返納モ之レナキニ  
 ヨリ村々差出金貸附等ヲ願フトモ新ニ貸附  
 セサルヘシ若シ止ムコトヲ得サル分ハ別段  
 主法ヲ設ケ稟議シ且是マテ貸附ノ分モ減少  
 スルヤウ取計フヘシ  
 右ニ付キ村方ニテ相對貸等ノ分モ支配所  
 役所ニテ聞届貸附方ヲ指揮シ自然貸附金  
 ニ類スルモノモ之レアルヤニ聞ク右ハ慣習  
 ナレトモ以來右體ノ事ヲ廢スヘシ

申丙

以上 牧民  
金鑑

七年公私領トモ官貸金返納遲滯スヘカラサル  
 コトヲ令ス○馬喰町官邸貸金返納方割合ノ事  
 ヲ令ス○官貸金借受ノ者延期ヲ乞フトモ許ス  
 ヘカラサルコトヲ令ス  
 是歳九月令シテ曰ク馬喰町官邸并遠國代官  
 預所ニテ取扱ヒシ官貸金萬石以上以下借受  
 ノ者ハ先キニ納方主法ヲ改ムレトモ右ノ者  
 並公私領借受ノ者トモ近來納方速カナラサ  
 ル趣ニヨリ以來ハ證文面ノ通り遲滯ナク返

納スヘシ民牧金鑑 ○十月萬石以上以下へ達ニ曰ク馬喰町官邸並遠國代官預所ニテ取扱ヒシ官貸金納方ノ事ニ付今回達ノ趣モアリ以來毎歲證書面ノ如ク納ムヘキハ勿論ナレトモ馬喰町官貸金はマテ未納ノ分納方ハ一個年分元利金ノ外其年分納方ノ三分五厘丈ケノ金高ハ別ニ納ムヘキヲ以テ本年ヨリ以來毎歲納ムヘシ右納高割合等ハ貸附役所ヨリ達シアルヘシ且遠國代官預所ニ於テ取扱フ分調方ハ各役所ノ仕來ヲ以テ夫々達シアルヘ

シ尤全ク村方ノ者借受ノ分モ同様心得ヘシ民牧金鑑 ○十二月二日合シテ曰ク馬喰町官邸貸附金各代官所ノモノ借受ノ分納方ハ本年損毛ノ趣ヲ以テ村方ノ者ヨリ延期願出ツレトモ右ハ凶荒ニ拘ラス遲滯ナク納ムヘキ旨ノ證書ナルニ右體延期ヲ申出レハ外納方へ差響キ殊ニ今回達ノ趣モアルニヨリ願ノ旨ハ聞届ケカダシ右等延期ヲ願出ル者アラハ稟議ニ及ハズ證書ノ通り納ムヘキ旨村方へ申達スヘシ民牧金鑑

十一年各村夫食貸ハ容易ク許ルサ、ルコトヲ  
 令ス○諸國夫食貸返納ノ期ヲ緩クス  
 是歳四月令シテ曰ク各村官貸ノ事ハ一時村  
 々ノ助トナレトモ返納ニ至リ農民困苦スヘ  
 キニヨリ享保以來屢布達モ之アリ且従前ハ  
 定免村々四五分以下ノ損耗ナラテハ引方ヲ  
 立テサルヲ享保年中夫食官貸容易ク命セサ  
 ルヲ以テ三分以上ノ損耗アレハ引方ヲ立ル  
 事トナリシニ近年格別ノ損耗ナキ村々マテ  
 夫食官貸ヲ願フハ以テ外ノ事ナリ自今以

後夫食貸ハ容易ク許ルサ、ルニヨリ右ノ旨  
 ヲ各村へ申達スヘシ牧民鑑金○十月令シテ曰ク  
 諸國農民ノ借用ヲ許セル夫食種代農具代等  
 ハ水災等ノトキ救助ノ爲メナルニ近年頻リ  
 ニ凶荒ニテ借高夥シク返納ニ苦ムト聞クニ  
 ヲリ今般右返納殘ノ分ハ殘ラス來丑年ヨリ  
 二十五年賦ニ返納ヲ命シ陸奥出羽常陸下野  
 ハ困窮甚シキニヨリ本年ヨリ十年間返納ヲ  
 免スレハ十一年ヨリ二十五年賦ニ返納スヘ  
 シ右ノ如ク命スルニヨリ一同農業ヲ勉メ平



常ヨリ不時ノ備ヘヲナスヘキ旨ヲ農民へ申  
達スヘシ金牧鑑民

十三年札差へ利子ノユトヲ令ス○借貸利子ハ  
金二十五兩一分ト定ム○貸金不融通ニ付キ融  
通ヲ便ニスヘキユトヲ令ス○質物利下ケノ事  
ヲ令ス

是歳札差ノ者ニ令シテ日ク貸金ハ金一兩ニ  
付キ一月銀五分利子ノ定制ヲ固ク遵守スベ  
シ札差條○十月五日令シテ日ク金銀借貸ノ  
利子ハ是レマテ一割半ナレトモ以來ハ金廿五

兩ニ付キ月別金一分ノ利子ト定ムルニヨリ  
諸國トモ一般ニ右ノ割合ヲ以テ貸借スヘシ  
右ヨリ高利ノ金ハ一切貸出スヘカラス右定  
ノ外ニ於テ品々ノ名目ヲ附シテ多分ノ雜費  
ヲ取ルコトハ決シテ爲スヘカラス是レマテ金  
廿兩一分ヨリ高利ニ貸シ出シタル分モ此節  
ヨリ残ラス廿五兩ニ一分ノ利子タルヘシ是  
ヨリ下利ハ勝手タルヘシ宮門跡其他名目ア  
ル貸附金ノ分モ亦同様ノ利子タルヘシ又今  
回金銀貸借利子ノ割合ヲ定メタル上ハ棄捐

等ノ事ハ之レナキニヨリ金主安堵シテ貸出シ  
 融通ヲ支ユヘカラス借人モ棄捐スヘキトノ  
 不心得アルヘカラス互ニ實意ヲ盡シテ貸借  
 スヘシ違フモノアラハ嚴ニ之レヲ罪セン又以  
 前裁許ヲ受ケタル切金ヲ不足ニ差出ス者ア  
 ラハ是レ亦罪ニ處スヘシ牧民鑑○同年令シテ曰  
 ク金銀貸借ノコトニ付キ今回令セシ旨アル  
 ニヨリ容易ク出訴スヘカラスト思ヒ金ヲ貸  
 スモノ寡ク不融通ノヨシ聞ユ假令是マテ今  
 回定メシ利子ヨリ高利ノ證文アリトモ出訴

スルトキハ今制ノ利子ニ改算シテ嚴ニ返濟  
 フ命スヘキニヨリ貸主安堵シテ貸出スヘシ  
牧民鑑○同年令シテ曰ク今回世上貸金廿五兩  
 ニ付キ金一分ト定メタレハ質物ノ利子モ左  
 ノコトク下クベシ  
 一金一分以下錢質  
   錢百文ニ付キ一个月利子二文  
 一金二兩以下  
   金一分ニ付キ一个月利子二拾文  
 一金拾兩以下

金一分ニ付キ一个月利子拾六文  
一金百兩以下

金一分ニ付キ一个月利子銀一分

右ノ旨ヲ遵守シ營業スヘシ不正ノ所業アレ

ハ罰シテ之ヲ赦サ、ルナリ

觸書 寫

謹按天保年中貸借法改革ノ事情ハ今尙  
ホ故老ノ知ルモノアレハ其言フ所ニ據  
リ之ヲ述ン蓋シ此法令ハ即チ本金貳拾  
五兩ノ貸借ニ毎月ノ利子金一分ト定メ  
タルナリ其法タルヤ貸主多利ヲ貪リ人

民之レカタメ大ニ困苦ストイフニヨリ之  
レヲ救ハンカタメニ定メタルモノナレ  
ハ其意ハ惡シカラスト雖トモ實地ニ其  
法令ノ如ク行ハレタルニアラス其故ハ  
此法令出デシトキ法ニ背キ高利ヲ取り  
タルモノ二三輩嚴罰ヲ受ケタルニヨリ  
容易ニ金ヲ貸スモノナク因テ融通ノ道  
塞カリ窮者ハ益窮シ就中商法ニ従事ス  
ル人尤トモ困苦シタリ於是金ヲ借ンヲ  
欲スルモノハ若干ノ禮金多クハ筆墨  
紙料ト稱スヲ

出シ借ルコトヲ爲シタリ故ニ證書面ハ  
貳拾五一ニテモ其實ハ禮金ナル利外ノ  
利若干ヲ引カル、ナリ而シテ借主ハ多  
ク野諺ニイフ如ク借時地藏還時閻魔ニ  
テ督責ヲ受ケ己ムコトヲ得サルニアラ  
サレハ還サ、ルモノナリ之レニ由テ貸  
主ハ確實ノ抵當物ヲ取ルカ否ラサレハ  
禮金ヲ多ク貪ホリタリ然ラハ則チ借主  
ノ約ヲ守ラサルモノ多ク貸者之レヲ危  
ムヨリ利子ハ益騰貴シタルナリ故ニ穩

便省勞ノ貸借ハ其利子低下ニテアリシ  
トゾ又利ヲ本ニ結ビコムトイフコト流  
行シタリ是レハ譬へハ本貳拾五兩毎月  
ノ利子一分即チ本貳拾五圓ノ利子毎月二  
十五錢ノ割合ナレハ本百圓ノ利子ハ每  
月一圓一年ニハ拾貳圓即チ本利合百拾  
貳圓ナルヲ一年ヲ期トシ還清スヘキニ  
期ニ至リ還清セサレハ貸主ヨリ借主ヘ  
證書ノ書キ替ヲ乞ヒ而シテ此書キ替ヘ  
タル新證書面ニハ本ヲ百拾貳圓トシ毎

月ノ利子一圓拾貳錢ヲ取り立ルナリ是  
レ古令條ニ所謂廻利爲本ト其事蓋シ同  
シキナリ而シテ此書キ替ヘニ臨ミ或ハ  
禮金若干ヲ取り或ハ其月マテノ利ト其  
月ヨリノ利トヲ二重ニ取りタリ故ニ法  
令ニ符スルハ只證書面ノミナルモノ多  
シトゾ之ニ由テ考フレハ天保ノ法令ハ  
民情ヲ知ラスシテ施シタルモノニテ殆  
ント徒法ニ屬シタリ然レハ尋常貸借ノ  
利子ハ畢竟限制ス可ラサルモノ乎

卯癸

十四年馬喰町官邸貸附金ヲ棄捐ス○金銀借貸  
ノ訴訟ハ寛政九年以來ノ分ヲ裁判スヘキヲ令  
ス○馬喰町官邸貸附金主法替ニ付キ宿村差出  
金ハ成ルヘク上納切トナスヘキコトヲ令ス○  
官貸金返納遲滯スヘカラサルコトヲ令ス○金  
銀貸借ノ訴ニ付キ勘定奉行ヨリ其方法ヲ令ス  
○馬喰町官貸金主法替ニ付キ各代官所貸附金  
モ證文ヲ改ムヘキコトヲ令ス○去年以前ノ貸  
借金銀ハ裁判セサルコトヲ令ス○馬喰町官貸  
金ハ總テ半高ヲ棄捐スヘキコトヲ令ス○同上

ノ事ニ付キ勘定奉行ヨリ其方法ヲ令ス○遠國  
代官所ノ官貸金ハ馬喰町官貸金ト同シク半高  
ヲ棄捐ス○官貸金ノ利金渡方ヲ止ム○質物利  
子ノ事ヲ令ス

是歲六月朔日令シテ曰ク諸藩及ヒ旗下近來  
特ニ困窮ニ及ヒシヨシ台聽ニ達シタリ因テ  
今回思召ヲ以馬喰町官邸貸附金ハ去ル寅年  
ヲ限り半高ハ棄捐シ半高ハ無利足ヲ以テ年  
割上納スヘシ  
但拜借後利納五個年ニ至ラサルモノハ五

個年納濟ノ上本文ノ通タルヘシ  
一 滯利金ノ分ハ元金ニ准シ上納スヘシ  
一 本年ヨリ新ニ拜借ヲ命セラルヘキニヨリ  
元利納方期月ヲ違ハス各注意シテ借方ヲ  
申立ツヘシ  
一 遠國奉行所及ヒ遠國代官取扱ヒタル貸附  
金ハ是レマテノ通り居ヘ置カルニヨリ遲滯  
ナク元利上納スヘシ  
右ノ旨ヲ心得是レマテ納方等閑ノ者不少ナル  
ハ畢竟不注意ユヘニヨリ向後益節儉ヲ守ル

コトニ注意スヘシ民牧金鑑○同月三日令シテ曰  
 ク金銀貸借ノ利子ハ金廿五兩ニ一分タルヘ  
 キ旨ヲ昨年九月中布達セシニ付テハ貸借主  
 トモ實意ノ取引ヲナスヘキニ借主ノモノ等  
 閑ニ心得速ニ返辨セス貸主利益ノ薄キヲ厭  
 ヒ不融通ノヨシ聞ユ就テハ寛政九年以來ノ  
 借金銀ハ奉行所ニテ裁判スヘシ向後切金ヲ  
 命セス直ニ日限ヲ以テ辨濟セシメ猶豫スル  
 ニ於テハ身體限貸主ヘ渡スヘキニヨリ貸主  
 疑念ナク取引ヲ爲スヘシ借者モ其旨ヲ心得

テ等閑ニ爲スヘカラス尤トモ年古キ貸滞リ  
 アリテ追々利子ヲ元金ヘ結ヒ新借用或ハ預  
 リ金等ノ證文ニ改メシ類ハ素不實ノ取引ニ  
 付キ裁判セサルナリ賣掛モ十年以上ノ滞リ  
 ハ是亦同上タルヘシ但十年以上ノ滞ニテモ  
 引續キ取引スル分ハ査驗シテ裁判スヘシ遊  
 女町傾城町等ヨリ娼妓揚代金滞リ願出ルト  
 モ裁許セス右ノ如ク命スルニヨリ金銀融通  
 ヲ妨碍セス貸借主トモ實意ニ取引スヘシ且  
 以來身體限リ渡シ方ハ先訴ノ分ヘ日限濟方

ヲ命シタル内同様ノ後訴アルトモ金銀貸借  
 ニ限り先訴ノ事了リシ後ナラテハ其訟ヲ聽  
 カサルナリ尤トモ身體ヲ隱シ或ハ不法ナル  
 出訴等之<sup>レ</sup>アラハ其間里ノ吏人ニ至ルマテ嚴  
 ニ罪スヘシ牧民金鑑 ○同月四日令シテ曰ク馬喰  
 町官邸貸附金ノ主法改革ニ付キ宿村相續及  
 ヒ金銀銅山堤川除普請其他寺院修復等ノ爲  
 メ手當差出金ノ分其次第ヲ糺シ成ルヘキ丈  
 上納切ニ命シ下ケ金ヲ以テ貸附利金ヲ渡ス  
 分ハ向後差止ムヘキナレトモ左アリテハ難

濫スヘキニヨリ是<sup>レ</sup>マテ下附金ノ半減五年間  
 下附スルニヨリ右年限中永續ノ主法ヲ設ク  
 ヘシ右ノ趣意ヲ各村金主へ篤ト申諭シ取續  
 ノ法ヲ定ムヘシ若シ實ニ取續キカタキ分ハ  
 新ニ主法ヲ設ケ稟議スヘシ

但道中筋助成ノ爲メ差出金并利金宿驛へ  
 渡シ相續シ來ル分トモ右同様取計フヤウ  
 道中奉行へ達シタリ  
 右ノ通り達シタルニヨリ最初止ムコトヲ得  
 サル手當筋ノ申立ニテ願ノ上宿村差出金官



貸ニナリシ分且下附金ヲ以テ官貸ニナリシ  
利金下附ノ分トモ當今ニテハ事實相違アル  
ヤニ聞ク右等篤ト取調ヘ差出金ハ成ルヘキ  
丈上納切トシ利金下附ヲ止ムルヤウ取計ヒ  
事實止ムコトヲ得サル分ハ相續筋別段ニ主  
法ヲ設ケ勘定所ヘ申出ツヘシ牧民金鑑○同月九  
日令シテ曰ク馬喰町官邸貸附金ヲ借用シタ  
ル者數年延納シ別テ年賦納等トナリタル分  
連年納方等閑ノ者不少以テノ外ノ事ナリ右  
ハ困窮ニヨルトハイヘトモ各不注意ヨリ起

リ返納ノ期月ヲ延スタメ家臣等不筋ノ緣故  
ヲ求メ交面ヲ飾リ如何ノ取計ヒアル趣不束  
ノ事ナリ今般格別ノ思召ヲ以テ貸附金半高  
ハ棄捐シ残り半高無利足トシ尙新ニ貸附ヲ  
許スノ莫大ナル仁德ヲ仰キ各儉素ヲ守リ公  
用ヲ勤ムヘシ此後止ムコトヲ得ス借用ヲ願  
フトモ預メ返納ノ事ヲ注意スヘシ若シ從來  
ノ流弊ニ泥ミテハ今回ノ命モ詮チキニヨリ  
能ク注意スヘシ  
右ノ通り達シタルニ猶弊風ヲ追ヒ不束アラ

ハ其主人モ越度タルヘキニヨリ家臣ヘモ嚴  
 ニ達シ置クヘシ牧民金鑑○九月勘定奉行ヨリ達  
 ニ曰ク金銀貸借出訴ノトキハ原被告ノ申稟  
 符合セシ金高ニ應シ左ノ日限割合ヲ以テ辨  
 濟ヲ命スヘシ

- 一金三十兩以下 八十日程
- 一金三十兩以上 百二十日程
- 一金五十兩以上 百六十日程
- 一金百兩 三百日程
- 一金百兩以上三百兩マテ 四百日程

- 一金三百兩以上六百兩マテ 五百日程
- 一金六百兩以上千兩マテ 六百五十日程

但是ヨリ大金ハ其節取調伺出ヘシ  
 右日限中ハ手鎖預ヲ命シ返濟了ルヲ埃  
 テ之ヲ赦ス手鎖預後日數三十日ヲ過キ  
 等閑ニスルモノハ身代限ヲ命スレトモ  
 是レ亦伺ノ上取計フヘシ

但本人病氣ニテ代人ヲ差出スモ本人  
 ト同様タルヘシ

一日限ヲ命セシ内過半返濟セハ猶又再ヒ日

限ヲ命スヘシ

一日限中他罪ニテ牢舎等命セシコトアラハ  
落着ノ上ニテ返辨ヲ命スヘシ

一先訴ノ者アリテ未ダ了ラサルニ後訴アル  
トモ其訟ヲ聽カサレトモ家質及ヒ其他ノ  
質品アルトキハ前後ノ別ナク其訟ヲ聽ク  
ヘシ

一多人數連即ニテ借受ケタル金子ヲ連署ノ  
内ニテ先訴ノモノアラハ其餘ノ者へ辨濟  
ヲ命シ了リテ先訴ノ者外同様辨濟ヲ命ス

ヘシ

一金銀貸借ノ事ニ付キ二人ニテ一人ヲ訴フ  
ルモノアラハ其二口金高ヲ以テ日限ヲ定  
メ辨濟セシムヘシ

以上牧民鑑○閏九月十日令シテ自ク馬喰町官  
邸貸附金ノ主法ヲ改革シ去ル寅年ヲ限り元  
高半分ハ棄捐シ半分ハ無利足納方ハ年割通  
リ取計ヒ利金納方五年ニ至ラサル分ハ上納  
了レハ是又元高半分棄捐タルヘキ旨ヲ命セ  
シニ付キ各支配所村方ノ者若貸附金借用之

アル分棄捐無利足トナルニ付テハ證文書替  
 方及ヒ向後納方割合等右貸附役所へ納ムヘ  
 キ旨ヲ村方ノ者へ達スヘシ尤トモ是レマテ元  
 利納方各役所へ取立貸附役所へ納ムヘキ分  
 ハ納方割合等同所へ間合セノ後夫々へ達ス  
 ヘシ右證文書替ニ付キ村方ノ者印鑑ヲ各役  
 所ニ差出サシメ貸附役所へ廻スヘシ牧民金鑑○  
 十二月十六日令シテ曰ク近年困窮ノ徒多ク  
 シテ年ヲ積ミ借財莫大ノ徒アリ其徒ハ家計  
 容易ク本ニ復シカタキニヨリ今回官ヨリ貸

附ノ主法ヲ替へ且藏宿貸金モ年賦返濟ヲ命  
 シタルニヨリ他ノ金銀借貸ハ今日マテノ分  
 ノ訟ヲ聽カス自今貸出シタル分ハ其訟ヲ聽  
 キ裁許スヘシ尤トモ買掛リ諸職人作料手間  
 賃トモ同上タルヘシ但是レマテ裁許シテ日限  
 ヲ命シタル分モ返濟方奉行所ニテ裁許セス  
 又利子ハ去ル寅年布達ノ如ク心得決シテ品  
 々名目ヲ附シ多分ノ雜費ヲ取ルヘカラス且  
 金銀貸借ハ年ヲ經ルトモ互ニ實意ヲ以テ對  
 談シ妄リニ出訴ニ及フヘカラス今回相對返

濟ヲ命シタル上ハ寛政九年ノ令ニ遵ヒ取引  
 スヘシ貸主出訴スヘカヨサルヲ見テ棄捐ト  
 心得又ハ欲心ヲ以テ事ヲ巧ム輩アラハ嚴ニ  
 罪スヘシ又以來裁許ヲ受ケ返濟金不足等ア  
 ラハ是レ亦調査シテ罪ニ處スヘシ牧鑑○同月  
 同日令シテ日夕馬喰町官邸貸附金ノ内拜借  
 後利納五個年ニ至ラサル分ハ五個年納濟ノ  
 後今回ノ主法ニナスヘキ旨先キニ達シ置キ  
 タレトモ右ノ分トモ去ル寅年ヲ限り半高ハ  
 棄捐シ殘半高ハ無利足年賦上納ヲ命スベシ

一總體半高棄捐ニ付向後納方モ右ニ准シ是  
 マテノ半減タルヘシ

以上牧鑑○同月廿三日勘定奉行ヨリ達ニ曰  
 ク今回借金銀等對談スヘキ旨ヲ布達セシニ  
 付キ本月十三日マテノ分ハ其訟ヲ聽カス十  
 四日後ノ貸借出訴ハ裁許スヘシ地代家質店  
 賃雇人殘金滯リ確實ノ質物アル貸金爲替金  
 買預リ米等ハ以前ノ分トモ裁許スヘシ但質  
 地及ヒ買預リ米ノ利足定メアリテ質地及ヒ  
 買預ケニ立チカタク借金ニ准スル分ハ裁許

ニ及ハス又は是レマテ裁判ノ上ニテ返濟ヲ命シタル古證文ハ相對返濟ニ差支ヘハ證文書替ヘヲ爲スヘキニ借主同意セスシテ貸主ヨリ願ヒ出レハ借主ヘ書替ヘヲ命シ猶書替ヘサルトキハ調査シテ之ヲ罪スヘシ牧民鑑○同月廿五日令シテ曰ク遠國奉行同代官預所取扱官貸金ノ分ハ今回馬喰町官貸金ノ振合ヲ以テ一統主法ヲ改正スルニ付キ總テ去ル寅年ヲ限り元金滯利金トモ半高棄捐殘半高無利足年割上納ノ積リ納方ハ是レマテ納高ノ半減

ヲ以テ上納スヘシ依テハ以來不納アルヘカラス

右ノ通り達スルニヨリ道中方ノ分ハ元金及ヒ滯利金等ヲ取調ヘ勘定所道中掛ヘ申立ツヘシ尤トモ宿方及ヒ助郷等ハ貸附利金ヲ以テ取賄フニ付キ相續方主法且宿助成差出金等ノ類ハ追テ取調沙汰ニ及フヘキニヨリ其旨ヲ心得テ宿方助郷並川場ノモノヘ心得違ヒナキヤウ厚ク諭シ置クヘシ牧民鑑○同月代官へ達ニ曰ク遠國代官預所取扱貸附金ハ今

回馬喰町官貸金ノ振合ヲ以テ一統去ル寅年  
 ヲ限リ元金滯利金トモ一切半高ヲ棄捐シ殘  
 半高ハ無利足年割ニ上納シ納方ハ是レマテ納  
 高ノ半減ヲ以テ上納スヘキ旨ヲ命スルニ付  
 キ總テ利金渡方ヲ止ムレハ宿村相續方ヲ始  
 メ役所入用及ヒ修復入用等其他止ムコトヲ  
 得サル遺方ハ事實ヲ以テ別段入用ヲ調ヘ稟  
 議スヘシ尤トモ諸向差出金下戻方ハ追テ達  
 スヘキニヨリ元金ハ取立次第速ニ官庫ヘ納  
 ムルコトヲ取計フヘシ

牧監○同年令シテ日

ク融通便利ノタメ當分質物利子ハ金五兩以  
 下元金一分ニ付キ一箇月廿文百兩以下十兩  
 以上ハ元金一分ニ付キ一箇月十四文トスベ  
 シ質物ハ定制ノ如ク八箇月ヲ過キタルハ流  
 レトスベシ

觸書

謹按本文質物ハ八箇月ヲ過キタルハ流  
 レトストアレトモ今日ハ六箇月ヲ過レ  
 ハ直ニ流レトナルナリ

辰甲

弘化元年官府貸附金ノ方法ヲ改ム○各村夫食  
 ヲ始メ借金返納ノ半ヲ減ス○官金貸附ノ法ヲ

改メ其取計方ヲ命ス○諸國代官貸附金ノ内諸  
向差出金ノ事ヲ令ス

是歳正月代官へ令シテ曰ク官府貸附金ノ方  
法改正ニ付各管下拜借ノ分元高ノ半高ハ棄  
捐シ半高ハ利子ナク上納スヘキ旨ヲ令セシ  
ニ猶ホ方法ヲ改革シ納高ノ半減ヲ以テ上納ヲ  
命スルニヨリ其旨管下へ布達スヘシ牧民金鑑○  
同月十八日令シテ曰ク諸國農民へ拜借ヲ許  
セシ夫食等返納ノコトハ丑年ヨリ二十五年  
賦ニ命シ陸奥出羽常陸下野ハ十年間ヲ免シ

十一年ヨリ二十五年賦ニ返納タルヘキ旨ヲ  
子年命セシニ今般特別ヲ以テ夫食始メ諸借  
用ノ分本年ヨリ返納半高ヲ免シ子年年賦ヲ  
命セシ分ハ是マテノ年賦ニテ返納シ其他ハ  
本年ヨリ二十五年賦ニ返納スヘシ右ノ如ク  
命セシニヨリ平常耕作等ヲ勵ミ預メ水災等  
ノ備ヲナスヘキ旨ヲ各村へ達スベシ牧民金鑑○  
四月代官へ達ニ曰ク官府貸附金ノ方法改正  
ニ付キ借用ノ分ハ人別ニ金高取調取調治定  
セハ證文ヲ改ムヘシ其取計方左ノ如シ



一萬石滿未滿トモ直借ノ分譬ヘハ元金貳千  
 兩、年壹割ノ利子ニテ一個年限貸附、年々利  
 金二兩取立ツル分ハ天保己亥年マテノ利  
 子ヲ取立テ同庚子年後元利不納ナレハ子  
 丑寅三箇年分利金六百兩ト元金貳千兩ト  
 合貳千六百兩ハ半高棄捐半高無利子ニテ  
 癸卯年ヲ元ニ立テ年割上納スヘシ

一萬石滿未滿元金三十五年賦ニテ右年賦中  
 元金ノ利金外ニ不納利金トモ三十五年平  
 均正金納證文納ニテル分ハ元金ノ内壬寅

年納濟ノ分引去リ殘金ト寅年マテ年々ノ  
 元金ノ利金高ノ内正金ニテ納ムル分ヲ引  
 去リ殘金ト右年賦以前ノ不納利金ト三口  
 ヲ合シ半高ハ棄捐シ殘半高ハ無利子癸卯  
 年ヨリ年割上納スヘシ

一萬石滿未滿トモ文政年中ノ主法ニテ合金  
 年賦トナリ年々元利ノ内ハ譬ヘハ貳百兩  
 ツ、返納スヘキヲ天保丁酉年マテ返納了  
 リ同戊戌年後滯ル分ハ同年元金高同年  
 リ壬寅年マテ五年分納ムヘキ割濟利金ト

戊戌年ヨリ辛丑年マテ四年納ムヘキ元金  
ヘ關スル壬寅年分延利並無利子金滯リ利  
金之アル分ハ右ノ分一ツニ合セ半高ハ棄  
捐シ殘半高ハ無利子年割ニスヘシ

但納方ハ是レマテノ半減百兩ツ、返納ス  
ヘシ

一右同シク主法トナル分譬ハ天保戊戌年マ  
テノ年賦ニテ同己亥年ヨリ主法外並借ト  
ナルトモ年賦ノ内天保辛卯年分マテ納メ  
了リ同壬辰年後滯ル分ハ同年ヨリ戊戌年

マテニ納ムヘキ割濟元利金ト同シク元金  
ヘ關スル壬寅年分マテノ延利并主法外並  
借トナル元金并己亥年ヨリ壬寅年マテ四  
年分並借利金ト右五口ヲ合シ半高ハ棄捐  
シ半高ハ無利子癸卯年ヲ元ニ立テ年割上  
納スヘシ

但納方ハ主法中ノ納高半減ヲ以テ返納  
スヘシ

一右同シク主法ノ分壬寅年マテ主法ノ通り  
元利納濟又ハ並借等トナル分モ元金ノ半

高ハ棄捐シ殘半高ハ無利子上納スヘシ

但納方ハ去癸卯年納ムヘキ當リノ金高

半減ヲ以テ向後返納スヘシ

一萬石滿未滿并村方借トモ借請ノ新古ニ拘

ハラス去壬寅年マテノ分ヲ殘ヲス今回ノ

法ニ取計フヘシ尤右ノ内譬ヘハ元金貳千

兩癸亥年ヨリ五年賦年々ノ元金四百兩ツ

、外ニ其年々ノ利子トヲ納メ五年目ニ元

利皆濟ノ分己亥庚子年ノ分ヲ納メ辛丑年

後元利不納ナレハ殘元金千貳百兩ト辛丑

壬寅二年ノ分不納利金ト辛丑年割濟元金

ニ關スル延利金トヲ合シ半高ハ棄捐シ殘

半高ハ無利子ニテ上納スヘシ

但納方ハ丑年納ムヘキ元利金五百二十

兩ノ半減ヲ以テ返納スヘシ

一是マテノ不納及ヒ癸卯年定式納ムヘキノ

分モ同年正月後取立テタル分ハ同年無利

子金ノ内ヘ納レ替ヘニシ殘金アラハ本年

分ノ内ヘ納レ猶殘金アラハ下ケ戻スヘシ

尤トモ諸渡方トナリ下ケ戻シ差支ヘハ取

計方ヲ稟議スヘシ  
 一諸向ヨリ拜借ヲ願ヒテ次第ニ貸出ノ分其  
 他追々貸渡ヲ達シ置キ金高二滿タサル分  
 トモ向後ハ貸渡之レナシ尤トモ癸卯年主法  
 改正以前新貸ノ分ハ證書ノ通り心得取立  
 ツヘシ猶<sup>ホ</sup>貸附總體ノ取計方ハ追テ之レヲ  
 命スヘシ  
 一借用證文ノ書替ヘハ追テ其案文ヲ布達ス  
 ヘシ  
 一壬寅年前ノ利子癸卯年取立ノ利金諸向渡

方了リタル分ハ取り戻スニ及ハス渡シ先  
 キノ口々取調ヘ申出ツヘシ  
 一是<sup>レ</sup>マテ取立テタル元利金ノ内、役所ニ蓄ヘ  
 置キタル分及ヒ向後取立ノ無利子金トモ  
 總テ江戸官庫へ上納スヘシ  
 一文政年中主法改正ニテ利下ケ無利足トナ  
 リ元濟利足ト差引キ諸渡方利足過不及ノ  
 内ニテ過金ノ分ハ貸附役所へ引キ渡シ不  
 足ノ分ハ補ハセ夫々利金ノ渡方取計ヒ來  
 リタレトモ今回主法改正ニテ元利トモ棄

捐無利足トナルニ付キ渡後レ渡不足トモ  
 向後渡方ナキコト、心得ヘシ  
 一諸入用ノ事ハ是レマテ利金取立高ノ五厘下  
 附セシナレトモ以來利金取立ハ之レナキニ  
 ヨリ諸入用ハ下附セス併シ不得止入用ア  
 ラハ事實取調ヘ稟議スヘシ  
 但卯年新貸ノ分モ是レマテノ通り取計フ  
 ヘシ  
 以上牧民金鑑○十二月令シテ曰ク遠國代官管轄  
 下貸附金ノ内諸向差出金下ケ戻シノ方ハ江

戸ノ貸附金ニ準シ渡高ノ半減ヲ以テ元金ヲ  
 年割ニテ下戻スヘシ尤トモ差出金上切ニシ  
 テモ苦シカラサル分ハ其次第ヲ糺シテ成ル  
 ヘキ丈ケ上納切ヲ命シ若シ能ハサルノ分ア  
 ラハ其旨ヲ申出ツヘシ且主法改正ハ壬寅年  
 ヲ限り命シタルニヨリ癸卯年新貸ノ分又ハ  
 一年貸ニテ同年新證文ニ書替フヘキ分ハ總  
 テ主法ノ外タルヘシ牧民金鑑  
 二年官ノ貸附金返納ノ方法ヲ令ス○官ノ貸附  
 金取扱方ニ付キ入費ヲ給スル方法ヲ令ス

是歲六月萬石以上以下ノ者へ令シテ曰ク諸  
 國代官預所ニテ取扱ヒタル貸附金ハ去<sub>レ</sub>寅年  
 フ限リ元金滯利金トモ半高ハ棄捐ニシ半高  
 ハ無利足年割上納ノ事ヲ卯年十二月命シタ  
 ル通り年賦年季ヲ以テ借受ケタル分ハ主法  
 替トナリ一個年限ノ貸附ニテ其年元金皆納  
 ニ及ヒカタク尙又借受證文書替ノ分未<sub>レ</sub>證  
 文書替ヘサル分トモ新證文トナルヘキニ付  
 キ寅年限ノ主法替ニハナラサルニヨリ其旨  
 ヲ心得ヘシ尤トモ右ニ掛リシ未納利金寅年

マテノ分ハ半高ハ棄捐ニシ殘半高納方ハ是  
 マテ納高ノ一分七厘五毛ノ割合ヲ以テ別段  
 ニ納メ且文政中納方主法替ニナリタル分一  
 個年貸ノ並借トナリタル分主法中ノ不納ハ  
 萬石ニ付キ五十兩ツ、萬石以下ハ百石別段  
 ニ納ムヘシ右納方割合委細ノ事ハ代官所預  
 リ所ヨリ達スヘキニヨリ主法替ニナリタル  
 金高ノ分證文差出方ヲ取計フヘシ尤トモ全  
 ク村方借用ノ分モ同様ニ心得ヘシ牧民鑑○七  
 月代官へ達ニ曰ク官ヨリ貸附金ノ主法替ト

ナリタル分ハ利金之ナキニヨリ諸入用下附  
ノ分ハ向後無利足取立高五厘通りノ半減諸  
入用トシテ下附スルニヨリ取立方ヲ取計フ  
ヘシ牧民  
金鑑

孝明天皇

嘉永五年札差貸金ノ利子ハ天保十三年ノ令ヲ  
守ルヘキコトヲ令ス

此歲札差ニ令シテ曰ク貸金ハ天保十三年布  
令シタル如ク同様ノ割合ナル利子ヲ取ルヘ

子王

丑癸

シ目札帳差條

六年貸金ヲ妨クルコトヲ禁ス○貸金融通ノ道  
ヲ令ス

此歲九月六日令シテ曰ク諸借金銀ハ棄捐ヲ  
命スヘキノ巷説アルニヨリ町人等貸金ヲ爲  
サス因テ世上金銀融通セサルト聞ク甚々謂  
レナキコトナリ去癸卯年中相對返濟ヲ命シ  
タルニ猶又右棄捐等ノ事ハ決シテ之ナキニ  
ヨリ安堵シテ融通ヲ爲スヘシ續太平  
年表○同月  
七日令シテ曰ク近年外國船舶渡來シ武備ノ

專要ナルトキナルニ町人等ニ於テハ貸金ノ  
 棄捐カ又ハ半高無利子ノ令下ルカノ疑團ヲ  
 懷キ武家へ金ヲ貸スコトヲ爲サス甚タ差支  
 ヘルヨシ聞ユ右棄捐等ノ事ハ之ナキニヨリ  
 安堵シテ融通ヲ爲スヘシ且ツ壬寅年九月貸  
 金ノ利子ヲ下クスヘキ旨ヲ令シ又翌年相對  
 返濟ヲ命シタルヨリ貸主ニ於テ苦情ヲ唱ル  
 ヤニ聞ユレトモ決シテ棄捐等ノ事ナキニヨ  
 リ安堵シテ融通ヲ爲スヘシ續太平年表  
 安政五年警者高利ヲ取り貸金スルヲ禁ス

是歲十一月八日令シテ曰ク警者金銀ヲ貸出  
 ストキ連印貸シト稱シテ貸主ニアラサルモ  
 ノニ連印ヲ爲サシメ而シテ證文ヲ改ムルゴ  
 トニ禮金ヲ取り且ツ預メ其利子ヲ取り其他  
 尙不法ノ事アルニヨリ以來ハ師家ニ同居ス  
 ル者ヨリ訴へ出ルトモ其訟ヲ聽カサレハ其  
 師ヨリシテ訴へ出ツヘシ期月モ五六月ヲ經  
 タル後ハ訴へ出ルヲ許ストイヘトモ借主へ  
 モ通知セシテ妄リニ訴へ出ルコトヲ許サ  
 ス且連印證文ヲ廢スルニヨリ師家ニ同居ス



ル者ヨリ貸出シタル分ハ其師ノ名ニ改ムヘ  
シ若シ違フ者アラハ嚴ニ之ヲ罪セン觸書  
文久二年負債償却ノ事ヲ令ス  
是歲十二月令シテ曰ク馬喰町官邸ヨリノ借  
金八年五分ノ利子トシ元金二十箇年賦トシ  
テ返償スヘシ觸書

大日本貨幣史參考卷三

大日本貨幣史參考卷四

貸借部第四

今上

明治元年宮堂上方ノ名ヲ以テ貸附金ヲ爲スコ  
トヲ禁ス○太政官金札ヲ製造シ列藩石高ニ應  
シ拜借ヲ命ス○宮堂上方ノ名ヲ以テ貸附金ヲ  
爲スコトヲ禁スレトモ其令ヲ口實トシテ返金  
セサルヲ禁ス○宮堂上方ノ名ヲ以テ僧侶等貸

附金ヲ爲シ返辨ヲ責ルコトヲ禁ス

是歳三月御布告ニ曰ク近來宮堂上方ノ名ヲ以テ貸附金ト稱シテ貸金ヲ爲スノ徒アリト聞ク以テノ外ノ事ナリ御一新ノ際右體ノコトアルヘカラス自然右ニ類似スルコトヲ爲ス者アラハ取糺シ其罪ヲ赦サス憲法編○閏四月十九日御達ニ曰ク皇政更始ノ折柄富國ノ基礎ヲ建テンカタメ衆議ヲ盡シ一時ノ權法ヲ以テ金札ノ製造仰出サレ世上一同ノ困究ヲ救助シタマフ思召ニ付キ當辰年ヨリ來ル

辰年マテ十三箇年ノ間皇國一圓通用スヘシ其仕法ハ左ノコトク心得ヘシ但通用日限ハ追テ仰出サルヘシ

一金札製造ニ付キ列藩石高ニ應シ萬石ニ一萬兩ツ、拜借仰付ケラル、ニヨリ其筋ヘ願出ツヘシ

一返納方ハ必其金札ヲ以テ毎年暮其金高ヨリ一割宛上納シ來ル辰年マテ十三箇年ニテ上納悉ク畢フヘシ  
一列藩拜借ノ金札ハ富國ノ基礎ヲ建テタマ

フノ御趣意ナルコトヲ體認シ是ヲ以テ產物等精々取り建テ其國益ヲ引キ起スヘシ但其藩々役場ニ於テ猥ニ用ユルコトヲ爲スヘカラス

一京攝及ヒ近郷ノ商賈拜借ヲ願フモノハ金札役所ニ願フヘシ金高等ハ取扱フトコロノ產物高ニ應シ貸渡スヘシ

一諸國ノ府縣ヲ始メ諸侯領地内農商ノモノ拜借等ヲ請フモノハ其身元厚薄ノ見込ヲ以テ金高ヲ貸渡シ產業ヲ立テサシムヘシ

尤トモ返納ニ八年々相當ノ元利ヲ出スヘシ但遐邑僻陬ト雖モ金札取扱ハ京攝商賈ノ振合ヲ以テ取計フヘシ

一拜借金高ノ内上納ノ札ハ會計官ニ於テ斷截スヘシ但正月ヨリ七月マテニ拜借ノ分ハ其暮一割上納七月ヨリ十二月マテニ拜借ノ分ハ五分上納スヘシ

右ノ御趣意ヲ以テ即今不融通ヲ補助シタマフ仁恤ノ思召ニ付キ心得違アルヘカラス尤トモ金札ヲ以テ貸渡シ金札ヲ以テ返納ノ仕

法ニツキ引替ハ一切コレナシ官中日記○金○憲  
拜幣借ノコトニ付キ御布告數回アセストモ○五  
貨幣史ニ詳ナルコトハ略シテ記セストモ  
 月十七日御布告ニ曰ク過日御布令アリシ如  
 ク宮堂上方ノ名目ヲ以テ貸附金ト稱シ取扱  
 フコトヲ禁止スレトモ右ノ御布告ヲ口實ト  
 シ返金セサルモノ之レアルヤニ聞ユ以テノ外  
 ノ事ナリ向後心得違ヒナキヤウニスヘシ但  
 従前取扱ヒ來リシ分ハ名目金トイヘトモ故  
 障ナク返辨スヘシ憲法編○九月十九日御達ニ  
 曰ク伊豆相模其外へ宮公卿等ノ名ヲ以テ録

倉五山其外ヨリ民間ニ貸附ノ金アリテ元利  
 トモ取立ル趣ナレトモ春來兵役水損等ニテ  
 百姓ノ困苦見ルニ忍ヒサルノ際此ノ如キユ  
 トアリ流離亡散ニ至リテハ容易ナラサル次  
 第二付キ追テ御沙汰アルマテハ利子タリト  
 モ取立ツヘカラス僧侶ハ慈悲ヲ旨トスル者  
 ナルニ凶年ノ際民生ヲ苦シムルハ如何ニ付  
 キ心得違ヒナキヤウ嚴ニ達スヘシ憲法編  
 謹按是歲二月徳川氏ヨリ府下ニ令シテ  
 曰ク金銀貸借ノ利子ハ天保年間令セシ

八  
コトアレドモ近來物價騰貴シ且ツ方今  
ノ時勢金銀不融通下民困苦スルニヨリ  
府内ニ限り先令ニ拘ハラヌ相當ノ利子  
ヲ取リテ苦シカラス然レトモ格外ノ高  
利ヲ貪ルヘカラス尤トモ滯金アレハ訴  
ヘ出ツベシ但武家ニテモ相當ノ利子ヲ  
取り貸出スヲ許ス云々右ハ大政奉還以  
後ノコトニ付キ今本文ニ載セサルナリ  
之ニ據レハ二十五兩一分ノ令ヲ改メシ  
ナリ同時勘定方ノ建言書ヲ見ルニ滯金

ノ訴ハ拾五兩壹分ノ割合ニテ裁許セン  
トアリ然レハ當時貸借多ク拾五兩壹分  
ヨリモ尙高利ナルコト知ルヘシ

巳己

二年諸官府藩縣ニ於テ外國人ヨリ直ニ金銀ヲ  
借用スルコトヲ禁ス○諸官府藩縣従前ノ外國  
債ヲ申出ツヘキコトヲ布告ス○我國人ヨリ外  
國人ニ對シ又外國人ヨリ我國人ニ對シタル貸  
借處置ノ方法ヲ定ム

是歲二月二十日御布告ニ曰ク諸藩ニ於テ私  
ノ相對ヲ以テ外國人ヨリ貨幣ヲ借り入ルヘ

カラス以來借り入レント欲スルモノハ外國  
官ニ請フテ其指揮ヲ受クヘシ憲法編法○同月二  
十二日御布告ニ曰ク諸官府藩縣トモ外國ヨ  
リ買入レタル諸品代金拂殘リ及ヒ借入レタ  
ル金高拂返濟方期限等早々取調へ來ル三月  
中外國官へ差出スヘシ憲法編法○七月四日外國  
官ヨリ各國公使へ書ヲ與フ其書ニ曰ク我國  
ノ商人外國人等ヨリ借財シテ返濟ナラス借  
主身代分散ノトキ分散金割合方我國律ノミ  
ニテ取扱フモ不都合ニ付キ在神奈川縣判官

事ヨリ同所居留各國岡士ノ取扱振ヲモ承合  
シ猶篤ト勘辨シ分散人アルトキハ貸方ノ内  
外國人我國人ノ別ナク家藏書入レノ證書ヲ持  
スル者へハ其家藏賣拂代ヲ渡シ其餘書入レ  
ナキ證書ヲ持スル者へハ書入外ノ諸品拂代  
ヲ貸金高ニ應シ割合セ分散セシムヘシ又外  
國人へ我國人ヨリ家藏書入ノ證書ヲ受ケ取  
リ金銀ヲ貸渡ストキ既ニ其家藏他ノ者へ書  
キ入レアルヲ二重ニ書キ入ルコトアリテハ  
不都合ニ付キ家藏書キ入レニテ貸金ヲ爲ス

トキハ我政府へ問合セノ上ニテ貸出ノ處置  
 アランコトヲ欲ス右ノ旨ヲ貴國人民へ布告  
 アルヘシ尤トモ神奈川縣ノミニ限ラス外國  
 人關係ノ場所へハ夫々通達シ同様ニ取扱フ  
 ヘシ此旨ヲ通知スルニヨリ了承アラシコト  
 ヲ欲ス

附不列顛條約書中ノ一條ニ曰ク若シ日本  
 臣民不列顛臣民ニ對シテ逋債ノ償ヲ闕キ  
 或ハ欺テ逃匿スルモノアルトキハ日本上  
 官其人ヲ裁判所へ呼出シ嚴重ニ之ヲ償ハ

シムルコトヲ務ムヘシ若シ不列顛臣民欺  
 テ逃匿シ或ハ逋債ノ償ヲ闕クトキモ亦同  
 シ

日本政府モ不列顛政府モ日本臣民不列顛  
 臣民ノ逋債ヲ償フコトヲ引受ル理ナシ

各  
國  
 條約皆之

以上憲法  
類編

三年郷印證文ヲ取リタル貸附ノ金銀ハ示談ス  
 ヘキコトヲ布達ス○府藩縣ニ於テ外國ヨリ金  
 銀ヲ借り及ヒ器械ヲ買入ルニ將來未定ノ品ヲ

午庚

抵當トスヘカラサルコトヲ布告ス○復タ宮華族等ノ名目ヲ以テ金銀ヲ貸スヘカラサルコトヲ布告ス○府藩縣ニ於テ外國ヨリノ負債取調ブヘキコトヲ布告ス

是歳正月民部省ヨリ布達ニ曰ク舊幕旗下ヘ勝手賄金或ハ武器手當等ト稱シ舊知行所郷印證文ヲ取り貸付ケタル金銀取立ノコトヲ出願スルノ徒アレトモ右ハ追テ沙汰ニ及フマテ金主相對示談シ相當ノ濟方ヲ爲スヘシ類憲編法○二月廿二日御布告ニ曰ク府藩縣ニ於

テ會計融通ノ爲メ外國ヨリ金銀借用ノコトハ勿論外國ノ器械船艦等買入ニ付キ其歳入又ハ物産類總テ未定將來ノ品ヲ抵當トシテ求ムルコトハ決シテ爲スヘカラス但農商ノ徒互市ニ付キ互ニ手附金等ヲ授受スルハ官府ニテ關係セス本文ノ旨トハ自ラ差別之アリ右ト混淆セサルヤウ心得ヘシ太政官日誌○同月晦日御布告ニ曰ク宮華族其他ノ名目ヲ以テ金銀ヲ貸附スヘカラサル旨ハ先キニ御布告アルニ于今尙ホ内密取扱フノ向モ之レアル哉



ニ聞へ以テノ外ノ事ナリ向後右等ノ事之レア  
 ラハ糺明シテ嚴ニ沙汰ニ及フヘシ憲法編○四  
 月廿二日御布告ニ日ク府藩縣ニ於テ將來未  
 定ノ品物ヲ抵當トシテ外國人ヨリ金銀借入  
 ノコトハ決テ爲スヘカラサル旨ヲ先般達シ  
 タルニ付テハ是レマテ府藩縣ニ於テ外國人ヨ  
 リ負債之レアルノ分正金ニテ借入レ又ハ品物  
 買取リニ付キ代金延拂トモ現金返濟殘リノ  
 分都テ取調ブルニヨリ別帳ニ照準シ借入約  
 條ノ顛末抵當ノ品類返濟ノ期月利子ノ割合

及ヒ償却ノ目途トモ詳悉書キ分ケ來ル五月

廿五日限り差出スヘシ

借財約條分類并償却目的

正金ヲ以テ借入ノ分

外通用金銀幣何程兩弗但外銀外貨幣直通幣分用金其  
ボント其外各國通貨節入ノ相場シ明細ニ

一何年月日何譯ヲ以テ借入何年月日ニ至リ  
 一時返濟歟又ハ月賦歟年賦歟又ハ何度ニ  
 限り返濟歟ノ事

一借用中利足何割何分但何月何分歟又ハ利付月賦返濟歟利付年賦返濟歟ノ事

一月賦年賦其外等ノ約束ニ相成ル分借入後内金償却有之歟ノ事

一右借入ニ付キ引當品何々ニテ何程又ハ何ノ利益歟何ノ譯ニテ收得スヘキ金銀歟ノ事

一期月ニ至リ品物ニテ返濟スヘキ歟正金ニテ返濟スヘキ歟ノ事

但外國貨幣ニテ借入ニ相成ル分ハ其品ニテ返濟スヘキ歟又ハ通用金銀歟又

等ハ品物歟ノ事約條并ニ相場定方ノ對談

一右借入ニ付約條證書ノ寫

但附錄明細書等有之ハ不殘寫取り相添

ヘシ

右金返濟ノ手當ハ引當面ノ通ナル歟又ハ何品又ハ何ノ金又ハ何ノ利益ヲ以テ償却スヘキ旨借用高ニ照シタル目途積リ書

品物ニテ借入又ハ品物買入ニ付代金借入ノ分

何品

船砲銃諸物品器械

其外兵器

何程

但各品廉譯ヲ以テ記入スヘシ

此代通用金銀何程弗兩但外國貨幣ヲ通用

ボント其外各國通貨

ハ金銀貨幣ヲ通用  
ハ其節相場書明

一何年何月日何譯ニテ何ノ約條ヲ以テ借入

又ハ何々ノ品何程何譯ヲ以テ買取代金何

程借入等ノ事

一右借入買取等ニナリシ品物詳細ナル直段

書

一右返濟ノ手續何年月日限一時償却歟月賦

年賦歟其他利足ノ定等前條ノ廉書ニ倣ヒ

明細記入ノ事

一借財セシ後内金償却有無ノ事

一引當ノ品類及期月償却ノ節品物ニテ返濟

ノ答歟正金ニテ返濟スヘキ歟ノ約條ノ事

一右借入ニ付テノ約條證書ノ寫但前同斷

右金返濟ノ手當借用高ニ照シタル明細ナル

目途積リ書

前條正金借入ノ廉書ニ記入セシ如ク逐件

詳細ニ認分ツベシ

右之通借入高并返濟目途共相違無之候也

年號干支月日

何府藩縣

以上類編法

四年貸借利子多寡ノ定制ヲ廢ス○府藩縣拜借  
 證文書改ノ事ヲ命ス○府縣管下ノ救荒夫食等  
 ヲ貸下ルコトヲ止ム○賣掛滯リ帳面ニ借主ノ  
 印證ナキ分ハ裁判セサルコトヲ布告ス○舊諸  
 藩負債消却ノ目途ヲ申出ツヘキコトヲ布告ス  
 ○舊藩外債外國人出訴取扱ノ事ヲ外務省ヘ達  
 ス○舊諸藩ヘ金穀ヲ調達セシ者及ヒ其時日返  
 濟ノ期ヲ取調フヘキコトヲ布告ス○舊諸藩ヘ  
 金穀ヲ調達セシ者及ヒ返濟ノ期ヲ取調ヘルハ

各廳ヨリ發令後三十日ヲ限ルコトヲ布告ス○  
 舊諸藩債支消ノ方法ハ一般ノ御處置トナルヘ  
 キコトヲ達ス○諸縣負債返濟ノ延期等既ニ金  
 主ト示談了リタル分ハ申出ツヘキコトヲ達ス  
 ○舊諸縣ニテ管下ヘ貸下トナリシ金穀帳ヲ大  
 藏省ヘ差出スヘキコトヲ達ス○各縣ノ負債ハ  
 追テ一般ノ御處置トナルニヨリ金主疑惑スヘ  
 カラサルコトヲ達ス○公債證券ヲ典賣スルヲ  
 禁ス

是歲正月十八日御布告ニ日夕貸金銀利足ノ

コトハ是レマテ定制アレトモ自今ハ貸借雙方  
 相對示談シテ利足ヲ定メ貸金證文へ必ス書  
 載シテ取引スヘシ然ル後ハ金子貸渡ノトキ  
 前利ニ引落スナドノ取引ヲ爲スヘカラス若  
 シ背クモノアラハ雙方トモ曲事タルヘシ憲法  
類編○四月十日御布告ニ曰ク府藩縣諸拜借ノ  
 ヲト最初返納期限ヲ定メ大藏省ヨリ直ニ受  
 取リシ外ニ租稅ノ内ヲ以テ貸渡セシ分ハ或  
 ハ最初用意金等ノ譯ヲ以テ大藏省ヨリ受取  
 リ先々ニ於テ貸渡シ取計ヒシ分トモ總テ今

回證文書改メニ付キ是レマテ拜借米金トモ未  
 納ノ分一旦大藏省へ返納シ更ニ拜借スヘキ  
 コト、心得ヘシ尤トモ年賦ニテ既納之アル  
 分ハ殘高殘年季ヲ以テ證書何レモ各通ニ記  
 載シ東京貢納ノ諸縣租稅ノ内ヲ以テ貸渡セ  
 シ分并大藏省ヨリ受取リシ分ハ本年六月中  
 旬マテニ同省へ差出シ證書ト引換フヘシ京  
 坂へ貢納ノ諸縣及ヒ同所ニテ受取リシ分ハ  
 右兩所ニ於テ同様交換スヘシ  
 但租稅ノ内ヲ以テ貸渡セシ分ハ最前伺濟

ノ書ヲ添へ差出スヘシ且本文ノ通り證文  
 書キ改メ以後ハ別段勘定組伺出ルニ及ハ  
 ス別紙雛形ニ照準シ證書ヲ出スヘシ尤ト  
 モ出納勘定帳組方ハ兼テ達置キシ通り心  
 得ヘシ  
 一拜借其外年賦上納金等是レマテ十二月中ニ  
 納メシガ以後ハ其年十一月限大藏省へ上  
 納スヘシ  
 但正米ハ貢米ト同時ニ上納スヘシ  
 別紙

證文雛形

本紙西ノ内紙

何國村々何々拜借證文

何府藩縣

證

一金 何程

何國 何何何村

夫食代 種類 何々 拜借

但當干支ヨリ來ル干支迄何箇年賦壹  
 箇年何兩ツ、返納

右拜借金請取相渡申候尤返納之儀ハ書面割合之通取立相  
 納メ皆濟之節納手形ヲ以此證文ト引換可申候仍而證文如件  
 年號干支月日  
 何府藩縣印

大藏省

官員拜借ノ分モ右ニ照準シテ證文差出スヘ  
 シ  
 以上憲法編法 ○六月五日府縣へ御達ニ曰ク府縣  
 管下救荒夫食種穀其他正米ニテ貸下ケノユ  
 トハ自今廢止シ前月中近傍市中ノ上中下平  
 均ノ時價ヲ以テ石代ニテ渡シ右金高ヲ以テ  
 返納取計ヒ是レマテ正米ニテ貸渡シアル分ハ  
 年々返納ノトキ時價ヲ以テ右同様平均石代  
 ニテ取立上納スヘシ但米穀不足ノ土地石代  
 貸下ケノユト事實差支ヘハ管轄廳ニ於テ注

意シ不都合ナキヤウ取計フベシ憲法編法 ○同月  
 十二日御布告ニ曰ク是レマテ諸商人買販ノ品  
 代金滞リアリテ願ヒ出ルモノ相手方ヨリ證  
 書ヲ取置カストモ十年以内ノ取引ナレハ其  
 人記載シ置キシ帳面ヲ以テ裁判シ來リシニ  
 右ハ確證ナク徒ニ爭論ヲ長スルマテニテ無  
 益ノ日數ヲ送り産業ノ妨トナルノミナラス  
 自然奸曲ヲ計ル基ニモ之レアルヘキニヨリ自  
 今賣掛ケノ品假令十年以内ナルトモ各人記  
 載ノ簿へ借主ノ印章ナキ分ハ無證ノ貸金銀

同様一切裁許セス此旨心得ヘシ憲法編○十月七日御布告ニ曰ク縣治一體ノ規則ハ道テ命セラレトモ舊諸藩士卒族祿制授産ノ方法并負債消却ノ目途等各地方ニ於テ從來ノ便宜ニ從ヒ見込ノ次第モアルヘキニヨリ詳細取調ヘ右方法書ヲ添ヘ大藏省ヘ伺出ツヘシ憲法編○同月廿七日外務省ヘ御達ニ曰ク外國人ヨリ訴ヘ出シ貸金銀ノ訴狀ヲ外務省ニ受取り司法省ヘ差出セシヲ大藏省ニテ引受ケ返金ノ示談ヲ爲サント欲セハ左ノ手續ニ爲

スヘシ

第一條

大藏省ヨリ外務省ヘ申入レ外務省ヨリ司法省ヘ申入ルヘシ

第二條

外務省ヨリ司法省ヘ示談ニテ已ニ出セシ外國人ノ訴狀ヲ再ヒ外務省ニ受取ルニハ左ノ二様ノ別アリ

其一

外國人ヨリ一旦訴狀下ケヲ願出シニ因リテ



司法省へ訴狀下ケノ申入

其二

外務省ヨリ外國人へ訴狀下ケ願ヲスル様ニ  
示談セント欲スルニ付キ司法省ヨリ訴狀ヲ  
外務省マテ一應受取ラント欲スルノ申入

右二个條ノ手續ナレハ司法省ヨリハ己ニ  
受取リシ訴狀ヲ外務省へ返却スヘシ

前條ノ手續ニテ外務省へ返却セシ上ハ外務  
省ト大藏省トノ示談ハ司法省ノ知ル所ニ非  
ス然レトモ事ノ争訟ニ渉ル事務ハ司法省ノ

關係アリ其理左ノ如シ

外務省ヨリ大藏省へ示談ノ末ニ大藏省ニテ  
ハ外國負債ノ被告人方ニ當レハ負債セル各  
舊藩ノ官員ヲ呼出シ聞糺スコトハ可然ナレ  
トモ原告ノ外國人ヲ始メ連累ノ内國人タリ  
トモ苟モ原告人ニ屬スルモノハ大藏省ニテ  
之ヲ呼出スノ權ナシ憲法編○十一月十九日御  
布告ニ曰ク各地方官管下ニ於テ舊諸藩へ金  
穀調達ノ者ハ其時日并返濟ノ期限且利子等  
ノ約定明細取調へ證書寫ヲ添へ至急大藏省

へ差出スヘシ但各廳ヨリ發令後三十日ヲ限  
 リ差出スヘシ尤トモ時日ノ伸縮并利子ノ高  
 低等不都合ノ廉之アラハ嚴重ノ御沙汰ニ及  
 ハルヘシ憲法編法○同月廿二日御布告ニ曰ク先  
 キニ達セシ舊諸藩へ金穀調達ノ者時日并返  
 濟ノ期限其外取調ノコトニ付キ各廳ヨリ發  
 令後三十日限り申出テサル分ハ一切御採用  
 之ナシ但舊藩債減利又ハ年賦等ノ内談整ヒ  
 シ分ハ其取定メノ旨ヲ大藏省へ申出ヘシ憲法編法  
類○十二月十日諸縣へ御達ニ曰ク各縣ニ於

テ舊藩債支消ノ方法ヲ立テ伺出ツヘキ旨ヲ  
 達セシニ今般縣治御改正ニ付テハ右公債ノ  
 分ハ御取調ノ上ニテ追テ一般ノ御處分アル  
 へキニ付キ縣々ニ於テ爾後金主へ示談ニ及  
 ハス負債本帳へ證書寫ヲ添へ來申二月晦日  
 限り大藏省へ差出スヘシ若シ期限マテニ差  
 出サ、ル向ハ一切公債ニ立タス但本文ノ通  
 ニ付キ當未收納悉皆御規則ノ通り大藏省へ  
 上納スヘシ憲法編法○同日又諸縣へ御達ニ曰ク  
 本年七月十四日以來縣々ニ於テ負債返濟ノ

延期利足ノ節減等金主へ示談ニ及ヒ更ニ約定之レアル分ハ明細取調へ往來日數十五日ヲ限リ大藏省へ差出スヘシ類憲編法○同月十九日御布告ニ曰ク舊諸縣ニ於テ管下并諸方へ貸下ケシ金穀等本帳へ諸書ヲ添へ申二月晦日限リ大藏省へ差出スヘシ類憲編法○同日又御布告ニ曰ク各縣負債ノ内當今返濟期限ニ迫リシ分モ許多之レアルヘキナレトモ右逋債ハ最前達セシ如ク御取調ノ上ニテ追テ一般ノ御處分ヲ命セララルヘキニ付キ金主聊カ危疑ヲ

申壬

抱カサルヤウ各地方ニ於テ篤ト告諭スヘシ類憲編法○同月廿七日御布告ニ曰ク舊藩公債ノ証券ヲ以テ典賣スルヲ堅ク禁止シ各地方官ニ於テ取締スヘキ旨去ル十月中布告セシニ付テハ違犯ノ輩之レナケレトモ萬一心得違ヒ之レアルトキハ右證券ヲ沒收シ雙方トモ其罪ヲ赦サス類憲編法  
 五年舊藩負債本帳へ證書寫ヲ添へ大藏省へ差出スノ期ヲ延ハスコトヲ布告ス○舊諸藩ノ負債取調ニ付キ詐偽ノ證書ヲ設ケ官府ヲ欺クモ

ノ御處置ノコトヲ布告ス○外國人ト取引ニ地  
 券等ヲ書入ルコトヲ禁ス○郷印アル證文ノ事  
 ニ付キ訴訟アラハ裁判スヘキコトヲ布告ス○  
 家名再興諸藩藩債ハ家名新立以前ノ分ハ藩債  
 ニ立タサルコトヲ達ス○官華族寺院等ノ名目  
 金ノ事ニ付キ訴訟アラハ裁判スヘキコトヲ布  
 告ス○舊幕府ノトキノ馬喰町其他貸附金ヲ棄  
 捐スヘキコトヲ布告ス○華士族平民身代限規  
 則ヲ布告ス○身代限ヲ命セシトキノ揭示ノ場  
 所等ヲ布告ス○府縣諸拜借證書改正ノ事ヲ布

告ス○府縣拜借證書改正ニ付キ米金受取證書  
 ノ事ヲ布達ス○地代店賃ハ人々隨意ノコトヲ  
 布告ス○諸縣ニテ貸下ケノ金穀等本帳ヘ證書  
 ヲ添ヘ差出ス員數一層稠密ニ取調フヘキコト  
 ヲ布告ス○動不動産取引ノ訴訟ヲ審判スル方  
 法ヲ改ム○父兄弟財産ヲ異ニスル者身代限  
 リヲ命スル裁判ノ事ヲ布告ス○金納租稅遲滯  
 スレハ利子ヲ加ヘ上納スヘキコトヲ布告ス○  
 藝娼妓ノ貸借ハ其訟ヲ聽カザルコトヲ布告ス  
 ○華士族卒ヘ關スル貸借ハ己巳六月以前ノ分

裁判ニ及ハス且人民一般ノ貸借出訴期限ノコ  
 トヲ布告ス○藝娼妓ノ貸借ハ其訟ヘヲ聽カサ  
 ルコトヲ布達ス○金納租稅遲滯スレハ必ス利  
 子ヲ加ヘ上納ヲ命スヘキコトヲ布達ス○平民  
 相對ノ借貸ハ丁卯戊辰前後ヲ以テ裁判スヘキ  
 コトヲ布告ス○各所ノ積穀官民ヲ引分ケ處置  
 スヘキコトヲ布達ス○家祿ヲ抵當トスル貸借  
 ハ裁判ニ及ハサルニヨリ先<sub>壬申</sub>三月六日ノ布告中  
 家祿ノ件ハ取消スコトヲ布告ス○郷印証文ニ  
 テ舊領主等借用ニ相違ナクトモ裁判セサルコ

トヲ布告ス○諸拜借返納ハ其年十一月限り必  
 ス上納スヘキコトヲ布達ス○華士族卒ヘ關ス  
 ル貸借等裁判ノ方法ヲ布達ス○身代限物件中  
 貸附証文取計方ノ事ヲ布告ス

是歲三月廿四日諸縣ヘ御布告ニ曰ク舊藩負  
 債ハ本帳ヘ證書寫シヲ添ヘ去月晦日限大藏  
 省ヘ差出スヘク若シ期限ヲ過キハ一切公債  
 ニ立タサル旨ヲ客冬達セシニ右限日ニ迫リ  
 事故ヲ以テ猶豫ヲ願出ル縣々少カラス不都  
 合ナレトモ不得止縣情モアリ且人民ノ不幸

トナルニ付キ格別ノ御詮議ヲ以テ來ル五月十五日マテ延期スルニヨリ右定限ヲ過キハ決テ採用セサルナリ日誌官太政官○同月廿八日御布告ニ曰ク今般舊諸藩ノ負債取調ニ付キ證書ヲ差出セシニ右ノ内藩士其金主ト合議シ詐偽ノ證書ヲ設ケ官府ヲ欺クノ手段スルモノアリテ露顯セリ右ハ不容易所業ニテ即今御改革ノ機ニ乘シ姦計ヲ企ツル者ニ付キ推糺ノ後チ重科ニ處セラレヘシ付テハ是レマテ借貸書類ノ差出シアル内若シ一時ノ心得違

ニテ曖昧ノ所爲アルカ又ハ不取調ノ件ヲ心付キタラハ其管轄廳へ訴出ツヘシ然ルトキハ自訴ノ廉ヲ以テ罪ニ處セス若シ匿シ置キ後日顯ルレハ假令歲月ヲ過ルトモ嚴重ノ御處置アルヘシ日誌官太政官○四月十四日御布告ニ曰ク地所ハ外國人ニ對シ賣ルコトハ勿論金銀取引ノタメ地所地券等書入ヲ禁ヌ末々ノモノニ至ルマテ心得違ヒアル可ラヌ憲法編類○同月同日御布告ニ曰ク舊諸藩又ハ舊旗下ノ者へ米金ヲ貸附シ領内又ハ知行所ノ郷印證

文ヲ取置キシ事件ヨリ起ル訴訟ハ相對ノ濟方ヲ命セシニ右返濟滯リ下民困難少カラサルヤニ聞ユルニ付キ相對ノ示談ヲナス能ハサル分ハ自今訴狀取上ケ裁判スヘキニヨリ來七月晦日限リ其筋へ願出ツベシ太政官○同月舊靜岡藩以下二十二藩へ藩債ハ家名新立以前ノ分ハ公債ニ立タサルユトヲ布達ス憲法編○五月十九日御布告ニ曰ク官華族其他寺院ノ各目ヲ以テ金銀ヲ貸附セシ事件ヨリ起ル訴訟ハ相對ノ濟方ヲ命シ來リシニ右返

濟滯リ困難スル旨聞ユルニ付キ相對示談ヲ爲ス能ハサル分ハ自今訴狀取上ケ裁判スヘキニヨリ其筋へ願出ツヘシ太政官○同月廿二日御布告ニ曰ク舊幕府ノトキ馬喰町或ハ町年寄役所ヲ始メ大坂銅座及ヒ各地方奉行所又ハ代官所等ニテ舊諸藩ヲ始メ士民へ融通ノ爲メ貸附置キシ金銀米及ヒ日光上野府庫金諸料物金年番金宿坊金等ノ類ハ御詮議ノ次第アリ自今一切棄捐ス太政官○六月廿三日御布告ニ曰ク今般華士族平民トモ身代

限規則ヲ左ノ通り定メタリ但本年八月朔日ヨリ施行スヘシ

平民身代限抵償トシテ差押ニ可ラサル品類左ノ通り

一時服着替トモ 男女トモ各 二通宛

一夜具 男女トモ各 一通宛

一本人ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等職業ニ必要ナル書類器械品物等其金額五十兩ニ至ルマテ最モ本人ノ擇ム所ニ任ス可シ其價ハ貸

主借主ヨリ鑒定ノ者ノ道具屋一人宛差出シ

外入札人ト共ニ入札シ町村役人ニ於テ總入

札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ムヘシ

一食料

家族ノ人口ヲ量リ一箇月間用ユル飯米ヲ殘シ置クヘシ

但男丁ハ一日ニ五合麥ハ一升雜穀ハ一

升五合婦女幼少ハ四合麥ハ八合雜穀ハ

一升二合宛

一鍋釜及炊具 各 一通



華士族身代限抵償トシテ差押ニ可ヲサル品類左ノ通り

一家祿

但人口ヲ量リ年々飯米ヲ引殘シ其餘分ナキカ或ハ不足ノ者ハ其半高ヲ返金濟ミマテ金主ヘ渡スヘシ

- 一 大小刀類 男子一人ニ付各一通宛
- 一 冠服 男子一人ニ付各一通宛
- 一 時服著替トモ 男女トモ各二通宛
- 一 夜具 男女トモ各一通宛

一 本人職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品

但學業ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等ノ職業

ニ必要ナル書類及ヒ諸器械品物等其金

額五十兩ニ至ルマテ最モ本人ノ擇ム所

ニ任スヘシ其價ハ貸主借主ヨリ鑒定ノ

者ノ道具屋一人宛差出シ外入札人ト共ニ

入札セシメ町役人ニ於テ總入札ヲ比較

シ高札ヲ以テ其價ヲ定ムヘシ

- 一 鍋釜及炊具類 各一通

右身代限リノトキハ三十日間裁判所門前

高札場并ニ本人家宅へ揭示シ其次第ヲ傳承シ日限中追願スル者ハ糺ノ上處置スヘシ

但新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之レニ記載セシムヘシ

一前條ニ記スル所ノ引殘スヘキ必要物件ノ内未タ代價ヲ拂ハサル分ハ賣主ヨリ日限内訴出レハ現品ヲ取戻スコトヲ得ヘシ

但現在著用ノ衣服夜具ハ此限ニアラス一身代限ノ物件ハ入札拂ニ出ス可シ尤モ金

銀器等ノ定價判然タル物品ハ眞價ヨリ低ク賣拂フヘカラス且ツ賣拂金ノ總額ハ其人ノ負債及ヒ右一件ノ諸費用ヲ償フニ過クヘカラス

但入札拂ノ日ヨリ三日前ニ其品物及ヒ場所時刻ヲ裁判所門前并ニ其人ノ居宅及ヒ各地士民群集ノ所へ揭示シ及ヒ新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之レニ記載セシムヘシ且ツ貸主借主ヨリ差出セシ鑒定ノ者モ他人ト共ニ入札セシメ町役

人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定メ之ヲ現金ニテ取立テ裁判所へ差出スヘシ

以上類編法○同日又御布告ニ曰ク貸金銀滯ニ付キ身代限ヲ命セシトキ以來ハ本人宅并各府縣裁判所門前高札場等三箇所へ別紙案文ノ通り記載シ三十日間揭示セシ後身代限濟方ヲ命スヘシ尤モ右ノ旨ヲ傳承シ日限中追願セシ分ハ糺シテ處置スヘシ

揭示案

三十日ノ揭示ハ明治六年二月二十五日六十日ト改正

何町

何ノ誰

右ノ者儀何町何ノ誰ヨリ貸金滯出入出訴ニ及ヒ吟味ノ上身代限申付ルニ付若シ何ノ誰へ掛同様ノ願有之者ハ來ル幾日迄ニ可申出右日限過去訴出ルニ於テハ一切取上無之間其旨可相心得者也

壬申月日

揭示案

何町

何ノ誰

右ノ者借金出入ノ未吟味ノ上身代限申付ル  
ニ付所持品左ノ通り來ル何日ニ入札拂爲致  
候條入札致度相望者當日何字同人方へ可罷  
出者也

一建家土藏

一所持品 何

右何月何日入札拂

以上憲法編法 ○同月廿五日府縣へ御布告ニ曰ク  
府縣管下諸拜借證書ノ書方ヲ去辛未四月中

達置キシガ今般改正スルニヨリ本年八月朔  
日以後拜借米金ヲ受取ルトキハ別紙雛形ノ  
通り記載シ大藏省へ差出スヘシ

但諸官員拜借米金ハ是レマテノ通りタルヘ  
シ

本紙西  
ノ内豎  
帳

何國何郡何村何々拜借金證書

何  
縣府

合金何兩

證

內

金何兩

何國何郡何町何々拜借

但當干支ヨリ來干支マテ何箇年  
賦壹箇年金何兩ツ、返納ノ積

右奉請取候

第何區

戶長

何ノ誰印

同

副戶長

何ノ誰印

同

右何町拜借人總代

何ノ誰印

石代貸規則ノ分(元文朱書)

金何兩

右同斷

夫食拜借

此米何石

當干支何月何處上中下米平均相場米壹石ニ付金何十兩替

但右同斷

右奉請取候

調印連名右ニ同シ

以下何口ニテモ右ニ准ス

右干支何月幾日窺濟拜借金請取相渡申候  
返納ノ儀ハ書面割合ノ通取立年々十一月  
限相納皆濟ノ節納證書ヲ以此證文ト引替  
可申候仍後證如件

年號干支何月幾日

何府知事權知事  
縣令權令 印

關員ノ節ハ  
參事名印

出納寮

以上憲法編類法 ○七月廿三日大藏省ヨリ布達ニ日  
ク去月廿五日御布告ノ通り府縣諸拜借證書  
改正ニ付テハ以後米金受取りノトキハ一廉  
ユトニ調印ノ證書二册差出シ出納寮割印ノ  
上一號ハ大藏省ニ留メ二號ハ其廳ヘ扣下シ  
テ下渡シ置キ皆納ニ至レハ納證書ニ添ヘ差  
出シ其トキ割印ヲ消シ二册トモ下ケ戻スヘ  
シ但扣ノ方ハ扣ノ文字ヲ書シ本書ト區別ス  
ヘシ大藏省布達全書 ○八月二十七日御布告ニ日ク  
地代店賃ハ其制限ヲ立ツト聞ク以來相對ヲ

以テ取り極メ貸借隨意タルベシ憲法類編○九月五日御布告ニ曰ク舊諸縣ニ於テ管下并諸方ヘ貸下ケシ金穀等本帳ヘ證書ヲ添ヘ二月三十日限大藏省ヘ差出スヘキ旨ヲ去辛未十二月中達セシニ依リ差出ス本帳證書ノ員數外ニ商農ノ者ヨリ借高預リ米金等ヲ届出ル者モアリ右ハ調ヘ落ち届漏レトナル趣ニ聞ユルニヨリ總テ貸下ケノ向ハ今一層稠密ニ取調ヘ借人預リ主等之アレハ其管廳ヘ申出テ右人名并員數巨細記載シ來ル十月十日限り

遲滯ナク大藏省ヘ差出スヘシ太政官日誌○同月

十三日司法省ヨリ布達ニ曰ク凡動産不動産取引ノ訴訟ヲ審判スルニ原告被告雙方ノ内一方ノモノ負公事ニ決スルトキハ日切濟方ヲ命セシ後チ仍不濟ニ於テハ身代限ヲ命スル方法ナレトモ自今日切濟方ノ舊法ヲ廢シ一方ノモノ負公事ニ決シ直ニ濟方ナラサルトキハ身代限ノ方法ヲ執行スヘシ憲法類編○同月十八日御布告ニ曰ク父兄ト同居ノ子弟或ハ別居シテ財産ヲ異ニスルモノ又ハ父既ニ

家督ヲ其子ニ讓リ隱居別宅シテ財産ヲ異ニ  
 スル者自分一己ニ金銀ヲ借受ケ其證券中本  
 家ノ戸主保證ノ調印ナキハ貸主ニ於テ本家  
 ノ財産ヲ目的トシ貸シ與フルノ筋ナキニ付  
 キ若シ右等ノ者返金滯リ訴訟ニ及フトキ同  
 居ノ者ハ其身所持ノ品物ノミ分産異居ノ者  
 ハ其財産ノミヲ以テ之ニ當テ身代限りニ裁  
 判スヘキニヨリ心得ノ爲メ此旨ヲ達ス太政官  
誌 ○同月廿四日御布告ニ曰ク各府縣管下村  
 市ヨリ其管轄廳へ租税金納方ハ其地方廳ニ

於テ期限ノ達シアルニ猶ホ納方遅クナリ是  
 マテ各廳ヨリノ上納皆濟期限通りニ至ラス  
 不都合ニ付キ以來天災地變其他ノ事故アル  
 ハ格別ナレトモ萬一人民心得方等閑ヨリシ  
 テ布達ノ期限マテニ上納セサレハ一个月コ  
 トニ不納金百圓ニ付キ五拾錢ノ利息ヲ加ヘ  
 上納セシムヘシ尤トモ其年七月ニ至ルマテ  
 猶<sub>モ</sub>上納滯レハ本人身代限ヲ命シ本税利分ト  
 モ一同差出サシムヘシ其旨管下村町へ布達  
 スヘシ太政官 ○十月二日御布告ニ曰ク人身



ヲ賣買シ終身又ハ年期ヲ限り主人ノ意ニ任  
 シ虐使スルハ人倫ニ背クニヨリ古來制禁ナ  
 レトモ年期奉公等種々名目ヲ以テ其實賣買  
 ノ所業ヲ爲スモノアリ右ハ自今嚴ニ之ヲ禁  
 ス農工商諸業習熟ノタメ弟子奉公ハ勝手ナ  
 レトモ年期七年ヲ過ク可ラス雙方和談ヲ以  
 テ期ヲ延スハ勝手タルベシ平常ノ奉公人ハ  
 一年ヲ期トスベシ娼妓藝妓等年季奉公人ハ  
 一切解放ス右ニ付テノ貸借訴訟ハ總テ取り  
 上ケサルナリ太政官 日誌 ○同月八日御布告ニ日

ク

一華士族卒へ關スル金穀貸借ハ明治二年六  
 月郡縣ノ制ヲ命セラレシ以前ノ分ハ裁判  
 ニ及ハス  
 一静岡及<sub>レ</sub>仙臺會津其他再立ノ諸藩再立以前  
 ノ金穀借貸ハ裁判ニ及ハス  
 一自今貴賤上下一般ノ人民互ニ期ヲ約シテ  
 金銀ヲ貸借シ若シ期ニ及テ返サ、ルトキ  
 私ニ屢々催促ヲ爲ストモ期月後滿五年ニ至  
 ルマテ一回モ訴出サル者ハ裁判ニ及ハス

但本年七月以前貸借ノ分ハ此限ニ非ス  
一從前今後トモ家祿ヲ抵當トシ金穀貸借ノ  
事ハ一切裁判ニ及ハス

以上憲法編法○同月九日司法省布達ニ曰ク本月

二日太政官ノ公布ニ付キ左ノ件々心得ヘシ

一人身ヲ賣買スルハ古來制禁ナルヲ年季奉

公等種々ノ名ヲ以テ其實賣買ニ均シキ所

業ニ至ルニ付キ娼妓藝妓等ヲ雇フノ資本

金ハ贓金ト看做ヌ故ニ右ヨリ苦情ヲ唱フ

ル者ハ取糺シテ其金ノ全額ヲ沒收スヘシ

一娼妓藝妓ハ人身ノ權利ヲ失フ者ニテ牛馬

ニ異ナラス人ヨリ牛馬ニ物ノ返辨ヲ求ム

ルノ理ナシ故ニ從來娼妓藝妓ヘ借ス所ノ

金銀并賣掛ケ滯金ハ一切責ルヘカラス

但本月二日以來ノ分ハ此限ニアラス

一人ノ子女ヲ金談上ヨリ養女ノ名目ト爲シ

娼妓藝妓ノ所業ヲナサシムル者ハ其實際

上則人身賣買ニ付キ從前今後嚴重ノ所置

ニ及フヘシ

以上憲法編法○同月十三日大藏省布達ニ曰ク租

税金納方延期ノ者ハ壬申九月公布ノ通りタルニ加息セハ自然遷延シテモ不苦ト心得違フ者モアルヤニ聞ユ以ノ外ノ事ナリ右ハ期限通り納ムヘキハ勿論ニテ遅延スヘキ筋之レナキニ是レマテハ延納ノ者モ罰セサレトモ其極終ニ怠惰ノ風ヲ生シ弊害不少ニ付キ專ラ獎勵ノ御趣意ヲ以テ加息ヲ命セラレシニ妄リニ延納スルヲ不問ニ置クヘカラス各管轄廳ニ於テ其旨ヲ篤ト説諭スヘシ如シ不得止事情アリテ延期ノ分ハ公布ノ通り取計フヘ

シ尤モ其他納メ月異同アル諸物税ハ總テ公布ニ照準シ期月後二个月間ハ一月分百圓ニ付五十錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ加ヘ三个月ニ至リ猶<sup>ホ</sup>滞レハ本人身代限リヲ命スヘキコト、心得管下ヘ周ク説示スヘシ大藏省布達全書 ○同月廿二日御布告ニ曰ク平民相互ノ金穀借貸慶應三丁卯年十二月晦日以前ニ係ル者ハ一般裁判ニ及ハス明治元戊辰年正月元日以後ノ分ハ裁判ニ及フヘシ太政官日誌 ○同月廿五日大藏省布達ニ曰ク各所積穀ノ内市村ヘ貸附

之<sup>レ</sup>アル内官民ニ途ニ引分ケ官物ハ借主ヨリ  
 ノ證文ヲ取り纏メ申出現貯蓄ノ分ハ早々上  
 納取計ヘシ民有ハ聚散トモ下民ノ適宜ニ任  
 スヘシ<sup>大藏省布達</sup> ○同月廿九日御布告ニ曰ク  
 本月八日公布ノ内第四條ニ家祿ヲ抵當トセ  
 シ金穀貸借ハ一切裁判ニ及ハスト掲載之<sup>レ</sup>ア  
 ルニ付キ本年六月廿三日ノ公布第六條家祿  
 ノ件ハ取消スニヨリ此旨ヲ達スヘシ<sup>太政官日誌</sup>  
 ○十一月四日司法省布達ニ曰ク郷印証文ニ  
 舊領主舊地頭借用ノ金穀ニ相違ナキ旨ヲ記

載シテ其舊領主舊地頭ノ證印アル分ハ勿論  
 假令證印ナクトモ右ノ明文書アル分ハ本年  
 十月八日ノ公布ニ基キ裁判ニ及ハス<sup>憲法類編</sup> ○  
 同月五日大藏省布達ニ曰ク諸拜借返納ノコ  
 トハ其年十一月限上納スヘキ旨辛未四月中  
 御布告アリシニ猶<sup>ホ</sup>上納遅延ニ及フハ不都合  
 ナリ尤トモ昨辛未年ハ廢置縣引繼等ニテ自  
 然遷延セシコトニモ之<sup>レ</sup>アル可キナレトモ本  
 年ヨリハ右期限ノ如ク上納取計ヒ若シ不得  
 止事情アリテ上納差支ル分ハ其件限り取調

其年十一月晦日限り伺出ツヘシ大藏省布達全書布○  
同月廿七日司法省ヨリ布達ニ曰ク本年十月  
太政官ノ御布告ニ基キ左ノ通り心得ヘシ

第一條

華士族卒へ關スル金穀貸借ハ明治二年己巳  
六月廿五日以前ノ分ハ取り上ケス翌廿六日  
以後ノ分ハ取上ケ裁判ス可シ

但華士族卒ヨリ平民へ關スルモ本條ノ通  
タルヘシ

第二條

預リ金穀ハ證文面預ケ金穀ノ名目ニテ利足  
之アリ又ハ預リ人へ融通セシムル廉ヲ以テ  
禮金等ヲ受ル分ハ第一條ノ通り心得ヘク尤  
モ全ク預金ニテ利足禮金ヲ受ケサルハ裁判  
ニ及フヘシ若シ其金穀ヲ費用シ濟方埒明サ  
ルトキハ斷獄課へ引渡スヘシ

第三條

元士族卒ヨリ當今農商ニ歸スル分及己巳六  
月ノ改革ニ付キ三代以下ニテ平民トナル者  
己巳六月廿五日以前ノ證文ニテ其トキ士族

卒ナレハ取上クヘカラス

第四條

神職僧侶等ニ關スル分ハ貸借ノトキ准士族  
卒ナレハ士族ヲ以テ取扱フヘシ

第五條

明治二己巳六月廿五日以前金穀貸借ヲ新規  
證文ニ書改メタル分ハ取上ケス

第六條

己巳六月廿五日以前ノ貸借ニテ華士族卒ヘ  
關スル分ハ御布告前審判又ハ對談日延中ト

イヘトモ濟方裁判ニ及ハサル旨ヲ命スヘシ

第七條

御布告前身代限ヲ命セシ分ハ其命ノ通り處  
分ニ及フヘシ

第八條

從前出訴糾問中和解シ家祿ヲ抵當トナシ新  
規證文ニ改メ濟口聞届ケタルハ御布告ニ依  
リ裁判ニ及ハス

第九條

從前華士族ノ名目ヲ用井タル貸附金ハ本年

十月ノ御布告ニ依リ取上ク可カラス

第十條

動産不動産ヲ債主ニ質入シタル者ハ取上ケ  
裁判スヘシ

但沽券狀ヲ債主ニ渡シ金穀ヲ借用セシム  
ルモ本條ニ准シ質入ト看做スヘシ

以上憲法編法○同日司法省ヨリ布達ニ曰ク身代  
限ヲ命シタル物件ノ内負債主ヨリ餘人へ貸  
付ケ置キシ金穀ノ證文アルトキハ其證文ノ  
本人へ眞偽ヲ質シ相違ナケレハ則其本人ヨ

リ證文面ノ通り受取ルヘキ旨ヲ債主へ命シ  
別紙雛形ニ倣ヒ證文ノ裏へ裁判所ニ於テ其  
旨趣ヲ記シ渡スヘシ

但債主數名ニテ負債主ヨリ他ノ數人へ貸  
シ付ケ置キタル金穀ノ證文數通アルトキ  
ハ羅賣ノ手續ヲ以テ其證文ヲ數名ノ債主  
へ入札セシメ落札ノ金員ヲ以テ其落札人  
ト其他ノ債主トニ貸金高ニ應シテ配當ス  
ヘシ

一其落札ノ證文ハ一通コトニ雛形ノ通り裁

判所ニ於テ裏書ヲ爲シ其證文ノ本人ヨリ  
落札ノ者ヘ渡スヘキ旨取り計フヘシ

證文ノ裏書雛形

表書ノ貸主何ノ誰儀年號月日身代限申付候  
ニ付此證文ハ某縣府管下某國某郡町村何ノ誰ヘ  
相渡候條證文面ノ通右何ノ誰々ヘ濟方可致  
事

年號月日

某裁判所

但田地等ヲ書キ入レタル分ハ裁判上某田  
地等羅賣ノ上ニテ代金ヲ以テ償却セシム

ヘシ

以上  
類憲  
編法



大日本貨幣史参考卷五

貸借部第五

今上

明治六年賣掛滞り職人手間滞り店賃滞り立替  
米金敷金証據金等滞り裁判ノコトヲ司法省ヨ  
リ上申ス○金穀貸附證文ニ返期ナキモノ等裁  
判ノ期限ヲ布告ス○田畑質地糶賣ノコトヲ司  
法省ヨリ上申ス○動不動産ヲ質物ニ取りタル

西 癸

二  
モノハ慶應三年十二月以前ノ借貸モ亦裁判ス  
ヘキコトヲ布告ス○田地質入書入ノコトヲ布  
告ス○私借官物律ノコトヲ司法省ヨリ上申ス  
○銀行成規ト御布告貸金銀ノ事ト矛盾ノモノ  
改定アラシコトヲ司法省ヨリ上申ス○貸金ノ  
利子ハ相對示談ニシ証文ニ必ス記スヘキコト  
ヲ布告ス○質地ハ糶賣濟方及ヒ流地トスルコ  
トヲ布告ス○法律上ノ利子一定アラシコトヲ  
司法省ヨリ上申ス○金銀貸借等ニ印紙ノ貼付  
ナキハ取上ケザルコトヲ布告ス○身代限揭示

○身  
ヲ六十日トセシコトヲ司法省ヨリ上申ス○身  
代限揭示ヲ六十日ト改メタルコトヲ布告ス○  
舊藩債償還方法ヲ定メタルコトヲ布告ス○舊  
藩ヨリ貸附タル金穀取立方ヲ布告ス○僧徒身  
代限ノトキ取押フ可ラサル品物ノコトヲ布告  
ス○僧徒身代限ノコトヲ布告ス○法律上利子  
ヲ百分六トスルコトヲ布告ス○貸借ノ利子ハ  
裁判決定マテ計算スルコトヲ布達ス○預金穀  
等渡方延滞ノトキハ利子ノ生スルコトヲ布達  
ス○流地處置ノコトヲ布達ス○貸借ノ訴訟期

限ヲ布達ス○身代限揭示文改正アラシコトヲ  
司法省ヨリ上申ス○舊藩ヨリ管下ニ貸タル金  
穀ノコトヲ布達ス○外國人ヨリ内國人ヲ相手  
ニシ訴ヘタル貸金等ノコトヲ司法省ヨリ上申  
ス○身代限揭示改正ノコトヲ布告ス○貸借證  
書ニ年號干支月日ヲ記入スヘキコトヲ司法省  
ヨリ上申ス○身代限ノトキ身代持直次第返濟  
方ノコトヲ布告ス○貸借其他私用証文ニ官名  
ヲ記ス可ラサルコトヲ布告ス○七月十日以後  
ノ證文ハ年號月日ヲ必ス記入スヘキコトヲ布

告ス○身代限ノトキ期限未滿ノ分處置方ヲ明  
白ニ揭示センコトヲ司法省ヨリ上申ス○貸借  
其他私用証文ニ官名ヲ誤用ス可ラサルコトヲ  
布告ス○負債者ノミヲ保護スル如キ處置ナカ  
ラシコトヲ司法省ヨリ上申ス○證文面ニハ必  
ス實印ヲ用ヒ爪印及ヒ花押ヲ用ユ可ラサルコ  
トヲ布告ス○身代限ノ處置方ヲ布告ス○動不  
動產書入貸借ノ方法ヲ布告ス○貸借取引ノ出  
訴期限ヲ司法省ヨリ上申ス○郷印證文ノ貸借  
處置ノコトヲ布告ス○貸借ノ利子ハ返濟ノ日

及ヒ身代限配當金處分ノ日マテ算計スルコト  
ヲ布達ス○貸借取引ノ出訴期限ヲ定ムルニヨ  
リ其期ヲ過キタルハ取上ケサルコトヲ布告ス  
是歲一月九日司法省上申ニ曰ク賣掛滯ハ品  
物代金引替ニスヘキヲ買主ノ都合ニヨリ代  
金ヲ拂ハス品ヲ借りタルニテ金穀ノ貸借同  
様トイヒ難ケレハ取上裁判スヘキカ但即金  
拂ノ積リニテ品物ヲ持去リ其マ、代金ヲ拂  
ハサルハ斷獄課ニ引渡スヘキカ諸職人手間  
代滯ハ貸借ノ筋ニ之ナク預金同様ノ筋ニ付

キ取上裁判スヘク尤トモ借用證文ニ書キ改  
メタルハ取上ケサルヘキカ店賃滯ハ前同斷  
ナルヘキカ立替米金ノ利息ナキ立替ニテ尋  
常ノ貸借ニアラサルハ取上裁判スヘキカ敷  
金證據金受負金手附金小作滯村入用滯ハ貸  
借ノ筋ニアラスシテ預金同様ナレハ取上裁  
判スヘキカ速カニ御指揮ヲ乞フ憲法編○同月  
十三日御布告ニ曰ク金穀貸附證文ニ返期ナ  
キカ又ハ出來次第返ス等ノ證書ヲ取り後日  
訴出ルニ於テハ裁判申渡シヨリ十二箇月中

ニ返濟方申附ヘシ但從前今後トモ年季ナキ  
 貸附ニテ返濟ヲ催スト雖トモ滿五年マテ訴  
 出デサルハ裁判セス尤トモ家屋等ノ貸賃ハ  
 不動産ニ屬スレハ滿五年ヲ過ルモ裁判スベ  
 シ(證書ハ實印ヲ用ユヘシ實印ナキハ裁判上  
 證據ニ立ス)憲法編法 ○同月同日司法省上申ニ曰  
 ク田畑質地流込ミハ從來賣買ヲ停メタルヨ  
 リ設ケタル方法ナルヘケレトモ壬申二月十  
 五日地所永代賣買ヲ許サレタレハ質地ハ貸  
 借ノユトユヘ同日以後質地ヨリ生スル訟ハ

其地所ヲ糶賣ニシ濟方ノ裁判ヲ爲スヘキ歟  
 憲法編法 ○同月同日御布告ニ曰ク平民相互ノ金  
 穀借貸慶應三年丁卯十二月以前ニ係ルモノ  
 ハ一切裁判ヲ爲サズト昨壬申年布告シタレ  
 トモ動産金銀衣服家什等不動産土地家屋  
物ヲ云フサルヲ質物ニ取タル分ハ右期日以前  
 ニ係ルモ取上ケ裁判スベシ憲法編法 ○同月十七  
 日御布告ニ曰ク先キニ田地永代賣買ヲ許シ  
 タルニヨリ自今質入書入スルトキハ左ノ規  
 則ヲ守ルベシ即チ規則十五個條其第一條ニ

十日金穀ノ借主<sup>主地</sup>ヨリ返スヘキ證トシテ貸主<sup>主金</sup>ニ地所ト證文トヲ渡シ貸主其作徳米ヲ以テ貸高ノ利子ニ充ルヲ地所質入トイフ第二條ニ曰ク金穀ノ借主<sup>主地</sup>ヨリ返スヘキ証トシテ貸主<sup>主金</sup>ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ノ作徳米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利子ニ充ルヲ書入トイフ第三條ニ曰ク金穀ノ借主<sup>主地</sup>ヨリ返スヘキ證トシテ貸主<sup>主金</sup>ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ借主ヨリ其利子トシテ米又ハ金ヲ拂フモ亦書入トイフ第四條ニ

曰ク地所ヲ質入ニスルトキハ地券ヲモ渡スベシ其年期ハ三年ヲ限ルベシ尤トモ三年以下期限ヲ定ルハ隨意タルベシ且ツ年限ヲ定ムルコトハ判然證文面ニ記シオクヘシ但シ書入ハ地券ヲ渡スニ及ハス其年限長短トモ本文ノ限ニアラスト雖トモ雙方相對ノ定メ年限ハ本文同様ニ證文面ニ記スヘシ第五條ニ曰ク質入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ返サズシテ地所ヲ引渡ストキハ舊地主其地券ノ裏ニ金主ニ引渡ス

十一  
ヘキ旨ヲ認メ其地ノ戸長加判ノ上金主ヨリ  
新地券書替ヲ願フヘシ第六條ニ曰ク質入地  
所ハ金主ニテ其地所ニ耕作ヲ爲スヘキニ付  
キ地租諸役トモ總テ金主ニテ勤ムヘシ但其  
旨ヲ管轄廳ニ届出証書ヲ出スベシ第七條ニ  
曰ク書入地所ハ地主ニテ耕作スルニ付キ地  
租諸役トモ地主ヨリ勤ムヘシ但シ届出ルコ  
及ハス第八條ニ曰ク管轄違ノ者又ハ同管轄  
ト雖トモ懸隔ノ地所ヲ質ニ取りタル時ハ現  
地ノ村町ヘ金主ノ各代人ヲ定メオキ其地租

諸役トモ差支ナク勤ムヘシ第九條ニ曰ク質  
入又ハ書入証文ニハ必ス其村町戸長ノ奥書  
證印ヲ取ルヘシ其村町戸長ノ役場ニハ奥書  
印帳ヲ備ヘ証文ノ奥書割印ヲ願ヒ出ルトキ  
ハ帳面ト證文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ  
奥書ヲ爲スヘシ若シ戸長ノ奥書及ヒ割印ナ  
キ證文ハ貸附ノ證ニ成ラサルナリ但戸長不  
在ノトキハ其旨ヲ記シ副戸長奥書調印スヘ  
シ第十條ニ曰ク一個所ノ地ヲ二重三重ニ書  
入ルコトハ成ラサルナリ然レトモ若シ第一

番ノ金主ニ引當ニ入レタルヲ第二番ノ金主  
 承知ノ上ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込ミ一個  
 所ノ地ヲ引當ニ借り添ルハ苦シカラス尤ト  
 モ引當ノ地所身代限ノ處分ニ至リ糶賣ニ成  
 ルトキハ右代金ヲ以テ先ツ第一ノ者ニ元利  
 金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二ノ者ニ元利  
 金數ヲ引渡シ第三ノ者以下右ニ準シ引渡ス  
 ヘシ若シ糶賣ノ金ヲ以テ先ツ第一ノ金主ニ  
 元利金數ヲ引渡シ其餘金不足スルトキハ第  
 二ノ者ニ不足ノマ、引渡スヘシ第三以下ハ

皆損失タルヘシ但シ第二ノ金主ニ受取ル證  
 文ニハ地所代價ノ餘分ヲ見込借り添タルコ  
 トヲ記スヘシ第十一條ニ曰ク地所ハ勿論地  
 券ノミタリトモ外國人ニ賣買質入書入等ヲ  
 爲シ金子ヲ受取り又ハ借受ルコトハ一切成  
 ラサルナリ第十二條ニ曰ク質入年季中天災  
 ニテ其地流失等其地ノ全形ヲ失スルニ至ル  
 トキハ地券モ消滅ト心得ヘシ池成野地成等  
 ニ變換シ又ハ欠崩等其地ノ半部又ハ三分ノ  
 一部形迹ヲ存セサルニ至ルトキハ右變換地



及ヒ殘存地ニ應シ規則ニ基キ地券書替ヲ願  
 フヘシ貸金穀高モ其割合ヲ以テ減シ証文ヲ  
 書替ルコト、心得ヘシ但貸主借主相對示談  
 ハ格別ノコトナリ第十三條ニ曰ク質入地所  
 年期中天災ニ依リ荒蕪トナルハ貸主ヨリ起  
 返ノ見込ヲ定メ借主<sub>地主</sub>承諾ノ證ヲ取り其管  
 轄ニ願フヘシ尤トモ入費ハ借主之<sub>レ</sub>償フヘ  
 シ但借主起返ノ入費ヲ出ス能ハサレハ證書  
 ヲ以テ其地所ヲ貸主ニ引渡スヘシ相對示談  
 ハ格別ノコトナリ第十四條ニ曰ク當今質入

又ハ書入ニ爲シオキ年期中ノ分ハ總テ前文  
 規則ニ照準シ當七月ヲ限り證文ヲ改ムヘシ  
 第十五條ニ曰ク是マテ質入書入ニ爲シオク  
 分ハ前約ノ年季ヲ居ヘオキ苦シカラス尤ト  
 モ證文面等前文規則ニ觸レタルハ總テ改ム  
 ヘシ第十五條ハ増補ニテ五月十七日ノ御布告ナレトモ此規則ヲ通看スルニ便ニセ  
ス○憲法類編記○同月十九日司法省上申ニ曰  
 ク私借官物律私ニ官物ヲ借り及ヒ人ニ轉借  
 スルモノハ監守盜ニ準シテ論シ罪流三等ニ  
 止ルニ過日雇人盜家長財物律改正ニナリ私

ニ借用シ及ヒ人ニ貸ス者眞犯ヲ以テ論シ罪  
 死ニ入レハ官物ニ輕ク私物ニ重ク權衡適當  
 セス依テ私借官物律ヲ削去シ官ノ財物ヲ私  
 借轉借スル者ハ總テ監守自盜ヲ以テ論スル  
 ヤウ改正アラシク乞フ憲法編法 ○同月二十五日  
 司法省上申ニ曰ク御布告國立銀行成規中第  
 四十條貸附金云々辛未正月二十八日御布告  
 貸金銀利足云々矛盾シ裁判上ニ於テ不都合  
 ニヨリ一方ニ確定アラシク乞フ憲法編法 ○二月  
 七日御布告ニ曰ク貸金銀利息ハ是迄定制ア

レトモ自今貸借雙方ノ者相對示談利息ヲ定  
 メ貸金證文ニ急度記載シテ取引スヘシ憲法編法  
 ○同月十四日御布告ニ曰ク壬申二月十五日  
 布告ノ通り地所賣買ヲ許ス上ハ質地ハ貸借  
 ノコトニ付キ翌十六日以後ノ證書ニテ質地  
 ヨリ起ル訴訟ハ糶賣ノ手續ヲ以テ濟ミ方ヲ  
 申付ヘシ但壬申二月十五日以前取引ノ質地  
 ハ年季明受戻サ、ルトキハ從前ノ通り流地  
 タルヘシ憲法編法 ○同月十五日司法省上申ニ曰  
 ク金穀貸附證文中ニ利息ノ定メ通り又ハ相

當ノ利息又ハ利息ノ二字ノミヲ記シタルモ  
 ノ間々之レアリ不都合ニ付キ先キニ御布告  
 ヲ乞ヒ御沙汰ニ及ハレザレトモ譬ヘハ賣物  
 アリ某甲之ヲ買フノ約ヲ爲シ時日ヲ定メ爾  
 後遷延約ノ如クセス數月ヲ過キ賣主ハ之レ  
 ヲ他人ニ賣ルヲ得ス之レカ爲メ金額ノ融通  
 ヲ塞キ多分ノ失費ヲ生スレハ止ムヲ得ス償  
 ヲ某甲ニ取ラサルヲ得ス此ノ如キトキ法律  
 上ノ利息一定ナクテハ裁判上必至ト困難ニ  
 付キ御布告アラソヲ乞フ憲法編類○同月十七日

御布告ニ日ク金銀受取金銀貸借地所賣買質  
 入書入爲替請負諸約定等凡ソ人民互ニ諸證  
 文手形書付類ヲ以テ後日ノ證トスヘキ品ハ  
 自今別紙規則ノ通り心得テ各其書面ニ印紙  
 ヲ貼シ取引スヘシ依テハ本年六月一日以後  
 ノ証書ニ右印紙ナキ分ハ後日訴ルトモ取上  
 ケザルナリ但印紙ハ大藏省ヨリ渡スヘシ布告  
 全○同月十九日司法省上申ニ日ク貸金銀出  
 入ニテ身代限ヲ申渡シタルトキ本人宅及ヒ  
 各所ニ三十日間揭示ト御布告アレトモ北海

道始メ郵便ノ道完成セサルモアリ三十日ニ  
 テハ全國普知シカタシ米國ニテハ六十日間  
 ノ揭示ト聞ク版圖ノ廣狹ハアレトモ前件郵  
 便未開モアレハ六十日ノ揭示アランヲ乞フ  
 類憲編法 ○同月二十五日御布告ニ日ク身代限ヲ  
 申付ケタルトキハ揭示三十日ト布告シタレ  
 トモ六十日ト改正ス類憲編法 ○三月三日御布告  
 ニ日ク舊藩々負債償還ハ別紙ノ通り之レヲ  
 定ム別紙左ノ如シ

一天保十四年以前舊藩ニ於テ借入レタル金

穀ハ公債ニ立タス

一弘化元年ヨリ慶應三年マテ藩用ニ借入タ  
 ル金穀ハ公債ニ立テ昨年壬申ヨリ無利息  
 五十年賦ニテ償還スヘシ

一明治元年ヨリ五年マテノ間右同斷ノ類ハ  
 公債ニ立テ昨年ヨリ二十五年賦ニ元金三  
 年据置キ年四朱ノ利息ヲ附ケ償還スヘシ  
 但利息ハ戊辰以來滯タル月ヨリ辛未年  
 中マテ四朱利元金へ組込ミ渡シ無利息  
 約定ノ分モ辛未七月ヨリ以後ハ四朱利

ヲ渡スヘシ

- 一 公債金二十五圓以上ハ證券ヲ以テ渡シ二十五圓未滿ハ明治六年ヨリ年限ニ應シ一割引ヲ以テ現金一時償還スヘシ
- 一切替證文ハ貸出シタル初年ヲ以テ處分スヘシ

但初年不分明ノ分ハ明治以後ハ慶應以前ノ借トシ慶應以前ハ天保度ノ借トシテ處分スヘシ

- 一 土地邸宅及ヒ船ノ類官用ニナリタル外品

物質入借リノ類ハ公債ニ立タス

- 一 滯利證文及ヒ結込利金ハ公債ニ立タス
- 一 獻金身元金鋪金冥加金永納金ト唱へ出シタルハ公債ニ立タス

- 一 舊藩中調達金ノ緣故ヲ以テ差遣ハシタル扶持類ハ渡方滯リタルトキヨリ廢止スヘシ

- 一 衣食住薪炭油其他一切ノ雜品代金拂滯ノ類更ニ借用證文ニ改メタルハ公債ニ立ツヘシ

一 講金ト唱へ藩用ニ掛込アルハ證據アレハ  
 公債ニ立ヘシ  
 一元入利拂ノ區別判然タリカタキハ元利金  
 高ニ割賦計算スヘシ  
 一 舊幕府及ヒ舊藩ヨリ社寺等ニ寄附金及ヒ  
 右ノ名目金ヲ借入リタルハ公債ニ立タス  
 一 舊幕府日光上野ヲ除キ宮華族名目金ノ藩  
 債ハ戊辰三月禁令以前ノモノノミ公債ニ  
 立ツヘシ  
 一 典賣證文ハ辛未十月以前ノ分ノミ公債ニ

立ツヘシ

一 貸主亡後讓狀ナキ證文ハ其家ノ相續人所  
 持ニ限り公債ニ立ツヘシ

一 田安一橋ヲ始メ元峰岡元西端元淺尾元曾  
 我野元今尾元松岡元犬山元新宮元田邊元  
 岩國元福本元堀江元矢島元田原本元志築  
 元成羽元村岡諸藩ハ藩屏ニ列シタル月ヨ  
 リ廢藩マテノ間藩用ニ充テタル借金ハ公  
 債ニ立ツヘシ  
 一元靜岡元仙臺元盛岡元大泉元小田原元桑

名元棚倉元二本松元高粱元斗南元宍戸ハ  
家名再興以來廢藩マテ藩用ニ充テタル借  
金ハ公債ニ立ツヘシ

但本文元藩士ヨリ藩々ニ調達ノ金ハ主  
家再興以來ノ分ノミ公債ニ立ツヘシ

一明治二年六月藩々版籍奉還以後知事ノ借  
入金ハ公債ニ立タヌ

一舊藩士ノ借財藩廳ヘ引受ノ證據アル分ハ  
公債ニ立ツヘシ

一米穀ハ各地方壬申三月平均相場ヲ以テ金

直シニスヘシ

一銀價ハ東京ハ金壹圓ニ付六十日京都ハ一  
個年平均相場大坂ハ戊辰五月銀目廢止ノ  
トキ布達ノ平均相場ヲ用ユヘシ

一藩造ノ紙幣ハ新貨價格比較表ニ從ヒ計算  
スヘシ

右ノ通り定メ證券下ケ渡スニヨリ其管轄廳  
ニ於テ本證文ト引替受取ルベシ尤トモ日限  
ハ追テ達スヘシ憲法類編法○同月同日御布告ニ日  
ク舊藩々ニ於テ從來諸方ヘノ貸附金穀取立

法則ハ別紙ノ通り之レヲ定ム別紙左ノ如シ

一 第一條、凡ソ舊諸藩ヨリ貸出シタル一切ノ貸附金穀ハ向後總テ無利息ト定メ各其種類ニ因リ年賦ヲ以テ取立ツベシ

但明治六年ヲ以テ取立初年ト定ム

一 第二條、天保十四年以前ノ各種貸附ハ一切弃捐弘化元年ヨリ慶應三年マテ二十四個年間ノ部ハ全數ノ三分一弃捐明治元年ヨリ廢縣マテノ部ハ全額取立ツヘシ

一 第三條、嘉永六年以來列藩ニ加ヘラレ又ハ

一旦滅亡更ニ新立ノ藩ヨリ貸附ノ分ハ右列藩以後ノ分ノミ取立ヘシ

一 第四條、各種ノ貸附高現在返辨殘ノ内元利結込アル分ハ利子ハ除去元金ノミ取立ヘシ

一 第五條、產物起立ノタメ戊辰ノ年藩々石高二應シ拜借アル楮幣ヲ以テ貸附アル分ハ其節定則ノ通り取立ベシ

但藩費ニ遣拂タル分ハ此限ニアラス

一 第六條、米金貸附ノ節物品引當アル分ハ其



物ハ入札拂ノ上ニテ代價一時上納スベシ  
但家屋敷田畑山林等靜産ノ類引當ノ分  
及ヒ引當物品現今之レナキ分ハ其事故  
申出ヘシ

一第七條米穀ハ各地方壬申三月平均相場ヲ  
以テ金直シ取立ヘシ

一第八條銀價ハ東京ハ金一圓ニ付キ六十目  
西京ハ一個年平均相場大坂ハ戊辰五月銀  
相場廢止ノ節布達ノ平均相場ヲ以テ取立  
ヘシ

一第九條藩造各種ノ紙幣ハ新貨比較表ニ基  
キ計算シ取立ヘシ

一第十條正租雜稅不納ニテ證文差入レ貸附  
ニナリタル分ハ別段詮議ニ及フヘシ就テ  
ハ右貸附ノ原由及實地取立振等調査ノ上  
伺出ヘシ

一第十一條貧民ヘ救助夫食種糶農具代トシ  
テ貸附ノ分ハ明治元年以前ノ分總テ弃捐  
以後ノ分半高弃捐十個年賦取立ヘシ  
一第十二條產資ノタメ金穀及ヒ品物貸附ノ

一分六八個年賦取立へシ

一第十三條、掛屋用達等へ無利息預ケ金又ハ諸勘定殘金預アル分ハ一時取立へシ

一第十四條、稅外產物及ヒ貯蓄米等ノ内貸附アル分十個年賦取立へシ

一第十五條、講金ノ類掛ケ込アル分ハ其出金高ノ半高弄捐、半高一時取立へシ

一第十六條、士族歸農歸商產資金トシテ貸附アル分ハ従前ノ方法ヲ以テ取立へシ

但通常家祿引當トシテ貸附タル分ハ弄

捐タルヘシ

一第十七條、宿場助成金トシテ金穀貸附ノ分ハ取立ニ及ハス

一第十八條、凡ソ通常證文面據ナキ入用ニ付拜借等名義判ノ貸附金穀ハ十個年賦取立然之ナキ分

一第十九條、借人トモ一時返納イタシタキ旨願ヒ出ルモノハ元高ニ一割引ノ算計ヲ以テ本額ヲ減シ返納ヲ免ス

右之通り定メタル條、毎年十一月中割賦通り

取立十二月二十日限り管轄廳ヨリ大藏省ニ  
納ムヘシ尤トモ從前ノ證書ニ調査ノ印ヲ捺  
シ各管廳ニ下渡スヘキニヨリ請取方及ヒ上  
納手續等同省ニ伺出ヘシ

附錄

一明治二年己巳六月以來舊知藩事手許金ヲ  
以テ貸附ノ金穀  
但藩々ニ借入タル分ハ此限ニアラス  
一舊幕府日光上野ノ外宮諸藩社寺ノ各目ヲ  
以テ貸附ノ金穀

但同上

一藩列ニ加ヘラレタル家及ヒ再立ノ家ヨリ  
列藩及ヒ再立以前貸附ノ金穀  
右貸借ハ雙方相對ヲ以テ返辨スヘシ依テ證  
書類下戻ニヨリ請取方大藏省ヘ申立ヘシ  
貸附金穀取立法則追加此追加ハ三月十五  
日御布告ナレトモ  
通看スルニ便ニセ  
ンヲメ茲ニ填ス  
一舊藩々貸附一紙證文金高ノ内元入及ヒ弁  
捐引去全ク取立高金五圓以下五拾錢以上  
銀錢札ハ價格米及ヒ品物ハ代價五圓以下  
表照準金直

五拾錢以上雜穀ハ五石以下五斗以上都テ  
 法則ニ定メタル年賦ニ應シ一割利引ノ計  
 算ヲ以テ一時取立大藏省ヘ納ムヘシ  
 一右同斷取立高全數金五拾錢未滿前銀錢札米  
 及ヒ品物ハ代價五拾錢未滿雜穀ハ五斗未  
 滿ノ者ハ各悉皆弄捐タルヘシ  
 但右二個條トモ法則第五條第十六條六  
 此限ニアラス  
 以上憲法編法○同月五日御布告ニ曰ク僧侶借財  
 滯出入身代限り規則ヲ左ノ通り定ムルニヨ

リ此旨ヲ達ス  
 一僧侶身代限規則  
 一抵償トシテ差押フヘカラサル品類  
 一食料  
 一寺内ノ人口ヲ量リ僧侶ハ一日五合麥ハ一  
 升雜穀ハ一升五合尼及ヒ婦女幼少ハ四合  
 麥ハ八合雜穀ハ一升二合宛一個月間用ユ  
 一飯米ヲ殘シ置クヘシ  
 一建物  
 法用ニ必要ナル個所

但本堂等へ建添トモ榮耀ニ屬スル個所

ハ此限ニアラス

一 寄附帳ニ記載スル部分

一 什物帳ニ區別シテ記載スル古來傳承ノ寶物及ヒ法用ニ必要ナル部分

一 法衣寺主及ヒ尼トモ所化各一通宛

一時服著更トモ寺主及ヒ婦女トモ所化各一通宛

一夜具寺主及ヒ婦女トモ所化各一通宛

一 鍋釜及炊具類各一通宛

一 本人職業ヲ爲スニ必要ナル金額五十兩ニ

至ル迄ノ物品ヲ差除ク等其他ノ方法ハ華

士族平民身代限ニ同シ

以上憲法編○同月同日御布告ニ日夕僧侶身代

限規則ヲ定メラル、ニ付テハ寺院所有ノ田

園建造物諸器什檀家ヨリ寄附ノ分又ハ法用

ニ必要ナル分及ヒ古來傳承ノ寺寶等ノ部分

判然セスシテハ差支ニヨリ左ノ規則ニ從ヒ

寄附帳什物帳ヲ綴リオクヘシ

一 寄附帳ニハ何年何月何誰寄附ノ田畑反別

建造物坪數諸器物ノ質分ニ至ルマテ詳細

ニ記載スヘシ  
 一 什物帳ニハ法用ニ必要ノ分及ヒ寺寶ヲ區別シ記載スヘシ  
 二 右二帳二部ツ、綴リ檀家法類トモ兩人以上及ヒ其他ノ戸長検査ノ上各姓名ヲ記シ之ニ調印シ一部ハ戸長役所ニ藏シ一部ハ其寺院ニ藏シオクヘシ  
 以上<sup>布告</sup>○同月七日御布告ニ曰ク金穀貸附ノ證文中ニ相當ノ利息又ハ利息トノミ記載ノモノマ、之<sup>レ</sup>アリ裁判上不都合ニヨリ今後

右様ノ類法律上ノ利息ハ金高一個年ニ付キ利息百分ノ六ニ定メ裁判スヘシ<sup>憲法</sup>類編法○同月十七日司法省布達ニ曰ク金穀貸借ノ利息ハ從前ノ仕來リニテ出訴前月マテノ分ノミ計算シ來リタレトモ以來ハ裁判決定マテノ利息ヲモ計算スヘシ<sup>憲法</sup>類編法○同月二十五日司法省布達ニ曰ク預ケ金穀賣掛代金、諸職人手間代、地代、店賃、立替金、敷金、證據金、受負金、手附金、小作金、穀村入用割合金、穀雇人給金、飯料、諸品損料、無利息貸金、穀右ノ類ニテ金穀等渡ス

ヘキ期限ニ臨ミ渡方延滞シタルトキハ其期限ノ日且ツ期限ナクシテ金穀入用次第渡スヘキ約定ヲ爲シタルハ渡方掛合ヲ受ケタル日ヨリ何レモ利息ヲ生スヘキニ付キ其トキハ雙方示談ヲ以テ利息ノ歩合ヲ定メ證書ヲ受取り渡シスヘシ若シ其コトナクシテ追テ訴訟ニ及フトキハ明治六年第九十二號布告ニヨリ處分スヘシ憲法類編○同月二十七日司法省布達ニ曰ク從前質地ヨリ起ル訴訟ハ證文中ニ年季明受ケ戻サ、ルハ流地ニスヘキ文

言アル分期限ヨリ二個月右文言ナキ分十年ノ内ニ訴へ出レハ受戻方申付ケタレトモ當八月ヨリ以後ハ流地文言有無ニ拘ラヌ年季明受戻サスシテ訴訟ヲ爲ストキハ明治六年第五十一號御布告ニ基キ二個月又八十個年ノ猶豫ヲ與ヘヌ直ニ糶賣ノ手續ヲ以テ裁判スヘシ但原告被告双方熟議ノ濟方ハ此限ニアラヌ憲法類編○同月三十一日司法省布達ニ曰ク至申第三百號御布告第三條但書ハ左ノ通り心得ヘシ

一 壬申七月以前金穀貸借ニテ既ニ同七月以  
 前返濟期限過去リタルハ同七月ヨリ五個  
 年之内訴へ出デザル者ハ裁判ニ及バヌ  
 一 壬申七月以前ノ貸借ニテ返濟期限同七月  
 以後ニ係リタルハ期限後滿五年ニ至ルマ  
 テ一度モ訴出デサル者ハ裁判ニ及ハス  
 以上憲法編法 ○四月十八日司法省上申ニ日ク身  
 代限規則揭示ノ條ニ日限過去訴へ出ルニ於  
 テハ一切取上ナシトアレトモ日限過去訴出  
 ハ其身代限リ處分ノ配當ヲ受ケサルマテノ

五十一ニテ訴訟ヲ取上ケサル筋ハ之レナキニ  
 且寸揭示案ノ内訴出ルニ於テハノ以下ヲ此  
 度ノ割賦へハ差シ加ヘスト改正アラシヲ乞  
 フ憲法編法 ○同月二十二日大藏省布達ニ日ク舊  
 藩々ニ於テ管下諸方ニ貸下ケタル金穀等本  
 帳へ證書ヲ副へ差出スヘキ旨辛未十二月布  
 達シタルニ同三月中府藩縣諸拜借返納方公  
 布ニ混同シ證書書キ替追々届出ルモノモア  
 リ右ハ全ク戊辰年後府藩縣ニ於テ新タニ拜  
 借ニナリタル分ニテ從來藩々貸下ノ分ハ本



年第八十一號公布ノ通り處分ニ付テハ勿論  
 書替等ノ手數ニ及ハス最前布達ノ通り從前  
 舊藩へ差入アル證書ヲ其儘差出スヘシ尤ト  
 モ追テ調査濟猶亦下渡スニヨリ其旨ヲ心得  
 未タ證書ヲ差出サ、ル分ハ來五月二十日限  
 リ急度差出スヘシ但產物起立ノタメ戊辰年  
 藩々石高ニ應シ拜借ノ分ヲ以テ貸附アル分  
 ハ右公布第五條ノ通り心得ヘシ憲法編○五月  
 二十八日司法省上申ニ曰ク外國人ヨリ內國  
 人ヲ相手取りタル金穀出入ノ訴訟往々證據

書類等之ナシ右体ノ訴訟ハ內國ノ規則ニ據  
 レハ元ヨリ受理セサル筋ナレトモ外國人ノ  
 事ハ從前取糺シタル類例モアル上ハ向後內  
 外國人交渉ノ事ハ證書類ノ有無ヲ論セス何  
 某へ貸金又賣掛等ノ滯リアル旨其ノ姓名ヲ  
 指シ訴出ルニ於テハ證據金ヲ出サセタル上  
 ニテ取糺スノ定メト爲サンヲ欲ス憲法編○同  
 月三十日御布告ニ曰ク身代限規則揭示按ハ  
 左ノ通り改正ス

揭示按

何町何ノ誰

右ノモノ儀何村何ノ誰ヨリ貸金滯出入出訴  
 及ヒ吟味ノ上身代限申附ルニ付キ若シ何  
 ノ誰へ掛リ同様ノ願アルモノハ當何日ヨリ  
 來ル何月何日迄日數六十日內ニ申出ヘシ右  
 日限過去訴出ルニ於テハ此度ノ割賦ニハ差  
 加ヘサルモノナリ類憲編法○六月二日司法省上  
 申ニ曰ク金穀貸借其他一切ノ證書類及ヒ公  
 私諸書物往復ノ文書等是マテ年號千支月日  
 ノ書式從前ノ習慣モアリ往復文書ニハ千支

ヲ記載スヘキ旨御布告モアリタルニ昨年大  
 陽曆御頒布ニテ紀元ヲモ仰出サレシニ付キ  
 千支記載ノ法モ消滅シ後來紛亂ヲ生スヘク  
 從テ裁判上不都合少ナカラサルニヨリ自今  
 諸證書類公私ノ諸書物及ヒ往復ノ文書等總  
 テ年號月日ヲ記載スルヤウ御布告アラシマ  
 乞フ類憲編法○同月八日御布告ニ曰ク金穀ノ借  
 主身代限申付ケタル上ニテ不足アルカ又ハ  
 借主逃亡又ハ死失跡相續人ナキトキ證書中  
 其證人ヨリ辨濟スヘキ旨ノ文言アルカ又

ハ請人ト記シタル分ハ償却申付ケ證人ト記シタル分ハ償却申付ケサレトモ明治六年八月一日以後貸借ノ證書ヘ加印シタル分ハ左ノ通り改ム

第一條金穀貸借ノ証文ヘ借主返濟滯ルトキハ請人ヨリ辨金スヘキ旨ノ明文アル分ハ本人身代限り濟方申付ケタル上不足立タハ其不足ノ分證人ヘ濟方申渡シ若シ相濟マサルニ於テハ其證人ヲモ身代限ノ償却申付尙其上ニモ不足立タハ追テ借主證人ハ勿論借主

證人ノ相續人トモニ至ルマテ身代持直次第返濟スヘシ

第二條借主逃亡又ハ死失跡相續人ナキ時ハ借主ニ代リ辨濟スヘキ旨ノ證書明文アルハ其證人ヘ濟方申渡タル上相濟マサルニ於テハ身代限申付若シ不足立タハ其證人ハ勿論證人ノ相續人ニ至ルマテ身代持直リ次第右不足ノ分尙返濟スヘシ

第三條請人ト肩書ニ記シオクマデニテ證書中借主ニ代リ辨濟スヘキ旨ノ文言ナキハ其

証人ノ辨濟ニ及ハス

第四條、身代限り濟方申付タル上不足立タハ其不足ノ分身代持直次第尙ホ濟方受クヘキ旨別紙裏書雛形ノ通り裁判所ニ於テ其旨ヲ原証文ノ裏へ記シ押印ノ上貸主ニ渡スヘシ

裏書雛形

借主ニ代リ証人ヨリ辨金スヘキ旨ノ明文アル證書ニテ借主証人共身代限申付ケ不足立ツトキ證書裏書ノ式左ノ如シ  
表書ノ元利金何百何拾兩相滯ル旨訴へ出ル

ニ付キ借主何之誰身代限り申渡シ動産不動産

等入札拂申付ル處不足相立ニ付証人何之誰

ヲモ身代限りヲ以テ償却爲致處都合金何百

何拾兩ニ相成ルニ付キ受取殘何百何拾兩ハ

借主何之誰証人何之誰ハ勿論其相續人共ニ至

ルマテ身代持直次第濟方可受者也

年號月日 某裁判所

借主失踪又ハ死失跡相續人無之証人辨金

ノ明文有之時ハ證書裏書ノ式左ノ如シ

表書ノ元利金何百何拾兩ハ借主何之誰死失踪